

春秋戦国時代青銅鉶考

——山東由来青銅礼器の拡散と消長——¹⁾

The spread of bronze He and its prevalence among the early
states during the Spring and Autumn Period

路 国権・西江 清高・渡部 展也・金井 サムエル

Guoquan LU Kiyotaka NISHIE Nobuya WATANABE Samuel KANAI

Abstract

Bronze He is originated in the state of Ju and Qi of the Yi-Shu-Zi River Basin in the late Western Zhou Dynasty. The distribution of the bronze He had already spread outward at the initial stage of the Spring and Autumn Period. However, it was in the early Spring and Autumn Period, when the bronze He expanded its distribution to cover vast area. The area covers Haidai region, Central Plains and Shanxi Fen River area, Jianghuai area, Beijing, Hebei, Shaanxi and Gansu. This was the time when bronze He, the foreign origin ware for the most of the area, became one of the basic burial goods which composes a particular set to fulfill the burial ritual in the Central Plain. Bronze He can be divided into four types from the difference of the number of its foot and its shapes. Type A (Flat bottomed) was popular in most of the areas during the initial and early Spring and Autumn Period. However, each region starts to use different types of the bronze He when it comes to the middle and late Spring and Autumn Period. In these periods, type A (Flat bottomed) was still popular in the Haidai region, while type Bba (Ring-footed), type Cbb (three or four legged), was each used in the state of Jin (Bba), San Jin (Bba), and Zheng (Cbb). Type Bbc (Ring-footed) and type Cdb (High legged) were popular in the state of Yan. The changes observed in the distributions of bronze He types are clearly reflecting the interaction and their relationships among the different regional groups in the ancient times.

The changes observed in the various archaeological evidences from the late Neolithic period to the Eastern Zhou dynasty indicates the long-term inter-regional relationship, which gradually moved toward the formation of an early-dynasties in China. The discussion over the bronze He in this paper can therefore be considered as one of an attempt to understand the spatiotemporal dynamics of the history.

Keywords: Eastern Zhou; bronze He(鉶); classification

西周王朝の開始期以降、華北、華中の各地に封建された諸侯国は、その後の周王室の衰退と洛邑への遷都という歴史動向を背景としてしだいに文化の独自色を強めた。その一方で、諸地域間ある

いは諸侯国間の交流と相互関係が深まり、華北華中における地域間関係の再編成がすすんでいったと考えられる。あらたな地域間関係の特色は、「夏」、殷、西周王朝の時代に、中原王朝を中心とした中心地と周辺各地を放射状に結んだ関係性とは異なり、諸侯国が相互に縦横に結びついた政治、軍事、経済の「国際関係」を背景とした関係性ではなかったかと考えられる。

春秋戦国時代のこのような地域間の関係性や諸侯国間の交流の状況を考古学的にとらえる一つの視点は、諸侯国の貴族墓等に副葬された青銅「礼器」の組成や形態の特徴を、国別に明らかにしながら、「越境」して拡散する青銅礼器諸要素の動きをとらえていくということであろう。春秋戦国時代の諸侯国、諸地域を巻き込んだ地域間交流の結果として、ある種の文化要素の広域における共通性が高まり、のちの秦漢帝国の領域性の基礎とも関係する「中国」的文化領域の形成がうかがわれるという見方もある²⁾。

筆者の一人の路国権は、これまで主として春秋戦国時代の諸侯国間の関係性を念頭において各種の青銅礼器の消長と拡散および文化諸要素の系譜関係に注目し、その全体的な様相を明らかにしようとして研究をすすめてきている³⁾。本稿では、路国権のこれまでの研究を踏まえながら、あらためて青銅鉶という青銅礼器の一器種に注目し、公表されている当該青銅器資料の渉猟をすすめるとともに、青銅鉶の型式分類と各型式の年代の考定をおこなう。その結果を受けて、西周晩期から春秋戦国期の全期間にわたる青銅鉶の消長を、型式別の地理的分布の変動とともに論じてみたい。

鉶は青銅容器の一種で、本稿で明らかにするように山東省海岱地区の沂沭河一淄河流域にあった斉国、莒国において西周晩期に誕生した。春秋初期⁴⁾には海岱地区から外に向かって波及するようになるが、やがて春秋早期の斉桓公によるいわゆる覇業の時代に本格的な伝播・拡散がはじまったと考えられる。山東に由来する当該青銅器は西方では中原河洛地区、山西汾河地区へと拡散し、さらに南方の江淮地区、北方の京冀地区、西北の陝甘地区にいたるまで広大な分布を見せるようになる。その後は分布の範囲をしだいに収束させて、やがて主として海岱地区にのみ集中する傾向となりながらも、戦国期の終わりまで継続した青銅礼器の一種である。

考古学的発掘によって出土した青銅鉶の数量は比較的多く、その分布範囲は広い。鉶はその拡散の歴史のなかで比較的鮮明な地域別の特色を示すようになる青銅器であり、春秋戦国時代の諸侯国相互間の歴史、文化、地域、族群の関係といった問題を扱うばあいの重要な資料となりうる。これまで何人かの研究者がこの青銅器について型式分類と年代考定の研究をすすめてきた(付表1)⁵⁾。しかし従来の研究で引用されてきた青銅鉶の資料は、かならずしも出土資料を十分に集成したものとはいえず、型式分類や年代研究等の基本的な認識においても、議論すべき課題がのこされていたといえる。本稿では近年増加した出土資料を含めて、青銅鉶資料433点を確認することができた(付表2)⁶⁾。以下ではその集成資料にもとづいて考察をすすめる。

(一) 型式分類

脚(足)の有無と器体の形態から、青銅鉶を大きくA型～D型の4つに分けることができる。

A型 平底。耳の有無と耳の数の違いから下位の3つの型に分ける。

Aa型 単耳。腹部の円鈕の有無によってさらに2つの型に分ける。

Aaa型 無鈕。腹壁の違いからさらに下位の3つの型に分ける。

Aaaa型 腹部は比較的平滑。口部と腹部の形態の違いから5式に分ける。

I 式 口部は直口でわずかに外反する。口部、腹部の俯瞰形は円形に近い。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比はやや小さい。深腹で腹部は円鼓。最大径は腹中部にある。莒県西大莊 1996M1:14 (図 1:1)⁷⁾。

II 式 広口で、口縁は外反。口縁の傾きはやや大きい。口部、腹部の俯瞰形は円形に近い。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比は I 式より大きくなっている。深腹で最大径は腹中部にある。韓城梁帶村 2005M26:139 (図 1:2)⁸⁾。

III 式 口縁の傾きは II 式よりやや小さい。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。腹部の最大径は腹中部。蓬萊柳格莊 1976M4:55 (図 1:3)⁹⁾。

IV 式 口縁の傾きは小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。口径 / 腹径比は大きくなり、口径と腹径はだいたい同じになる。腹部は浅くなり、最大径は腹中部。臨淄劉家新村 2011M28:31 (図 1:4)¹⁰⁾。

V 式 口縁は幅が狭くなり、口部、腹部の俯瞰形は楕円形。口径と腹径はだいたい同じ。腹部の最大径は中部から上腹部に移動。下腹部は下方に収束して小平底につながる。峰城徐樓 2009M2:21 (図 1:5)¹¹⁾。

以上のように形態変化の方向は、口縁の傾きが大きから小に、腹部が深いものから浅いものに、口部、腹部の俯瞰形が円形に近いものから楕円形に、器体は口部が小さく腹部が大きいものから口部と腹部がだいたい同じ大きさへと変化する。以下、各型式について論ずる形態変化の方向は、Aaaa 型と基本的に同じであり、一々の説明を省略する。

Aaab 型 腹壁は瓦椽形（屋根瓦が波打つように並ぶ平行波状帯）とよばれる波状の凹凸が平行して器体をめぐる装飾に特色がある。口部形態の違いから 2 式に分ける。

I 式 直口。棗陽郭家廟 2002GM17:11 (図 1:6)¹²⁾。

II 式 口部外傾、口縁外反。口縁の傾きはやや大きい。登封告城袁窯 1995M2:180 (図 1:7)¹³⁾。

Aaac 型 湾曲あるいは屈曲するような口縁らしいつくりをもたない。口部は内傾またはわずかに外傾する。同型は他の型にくらべて、古い形態が最も長く継続した型式であった。腹部と耳部の形態により 3 式に分ける。

I 式 深腹、環耳。浙川下寺 1978M3:28 (図 1:8)¹⁴⁾。

II 式 腹部は浅くなる。環耳。臨猗程村 1987M1023:4 (図 1:9)¹⁵⁾。

III 式 IV 式 腹部はさらに浅くなる。銜（くつわ形）環耳。荊州熊家塚 2006PM16:19 (図 1:10)¹⁶⁾。

Aab 型 器体長軸の両端に円鈕が付く。口部、腹部の違いにより 3 式に分ける。

I 式 口部外傾、口縁外反。口縁の傾きはやや大きい。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。長径 / 短径比は小さい。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比は小さい。深腹。臨淄東古城 1984M1:9 (図 1:11)¹⁷⁾。

II 式 口縁の傾きは小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。腹部は浅くなる。海陽嘴子前 1985M2:20 (図 1:12)¹⁸⁾。

III 式 口縁の傾きはさらに小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。口径 / 腹径比は大きくなり、腹部はさらに浅くなる。洛陽西工区 2005M8832:26 (図 1:13)¹⁹⁾。

Ab 型 双耳。腹部の円鈕の有無、および口部、腹部の形態の違いから 4 つの下位の型に分ける。

Aba 型 口縁外反。長軸の両端に円鈕がある。口部、腹部の形態から 3 式に分ける。

I 式 口部外傾、口縁外反。口縁の傾きはやや大きい。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。長径 / 短径比は小さい。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比は小さい。深腹。滕州薛故城尤樓 1978M1:1 (図

1 : 14)²⁰⁾。

Ⅱ式 口縁の傾きはⅠ式より小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。長径 / 短径比はⅠ式より大きくなる。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比は小さい。腹部は浅くなる。海陽嘴子前 1994M4: 132 (図 1: 15)²¹⁾。

Ⅲ式 口縁の傾きはさらに小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。口径 / 腹径比は大きくなり、腹部は浅くなる。聞喜上郭 1976M6: 4 (図 1: 16)²²⁾。

Abb 型 口縁外反。鈕はない。口部、腹部、蓋部の形態の違いから 5 式に分ける。

Ⅰ式 口部外傾、口縁外反。口縁部の傾きは大きい。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。長径 / 短径比は小さい。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比は小さい。深腹。当該型式の実物資料はいまのところ欠如。

Ⅱ式 口縁の傾きはⅠ式より小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。長径 / 短径比はⅠ式より大きい。口径は腹径より小さく、口径 / 腹径比は小さい。腹部はやや深い。聞喜上郭 1976M4: 2 (図 1: 17)²³⁾。

Ⅲ式 口縁の傾きはさらには小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。口径 / 腹径比は大きくなる。腹部は浅くなる。平頂環鈕の蓋が付くものと蓋のないものがある。洛陽体育場路 2005M8836: 41 (図 1: 18)²⁴⁾。

Ⅳ式 口縁部は幅が狭くなり、その傾きはさらに小さくなる。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。腹径と口径はだいたい同じで、腹部の最大径は中部から上腹部へと移動する。下腹部は下方へと収束し小平底につながる。蓋のあるものとないものがある。有蓋のものは環鈕を付け、蓋頂部はやや隆起する。海陽嘴子前 1978M1: 62 (図 1: 19)²⁵⁾、浙川下寺 1978M2: 54 (図 1: 20)²⁶⁾。

Ⅴ式 口縁部は幅が狭くなる。腹部の最大径は上方に移動し、下腹部は収束して小平底につながる。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形あるいは隅円長方形。長径 / 短径比はさらに大きくなる。蓋のあるものとないものがあり、有蓋のものは環鈕を付け、頂部はやや高く隆起する。臨沂鳳凰嶺 1982M: K35 (図 1: 21)²⁷⁾。

Abc 型 口部は直口あるいは内傾。口部には口縁らしいつくりはない。口部、腹部の形態の違いから 4 式に分ける。

Ⅰ式 直口ないしやや内傾。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。腹部は浅く、最大径は上腹部にある。下腹部は緩やかに収束して平底となる。蓋はない。峰城徐楼 2009M1: 11 (図 1: 22)²⁸⁾、当陽金家山 1984M247: 2 (図 1: 23)²⁹⁾。

Ⅱ式 口部内傾。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。腹部の最大径はさらに上部に移動。下腹部は急に収束して小平底につながる。蓋はないものとあるものがある。有蓋のものは環鈕を付け、頂部は隆起する。長治分水嶺 1972M270: 17 (図 1: 24)³⁰⁾、滕州薛故城尤楼 1978M6: 2 (図 1: 25)³¹⁾。

Ⅲ式 口部内傾。鼓腹。口部の最大径は上部に位置する。口部、腹部の俯瞰形は隅円長方形。蓋は環鈕が付き、頂部は隆起する。臨淄相家莊 1996M6X: 5 (図 1: 26)³²⁾、臨淄東夏莊 1984M6P13X22: 1 (図 1: 27)³³⁾。

Ⅳ式 形態はⅢ式に近い。腹部はやや深くなり、蓋は環鈕が付き、頂部は平頂または隆起する。臨淄辛店 2010M2: 20³⁴⁾、臨淄張家徐姚 2001M1: 2 (図 1: 28)³⁵⁾、臨淄商王 1992M1: 93 - 2 (図 1: 29)³⁶⁾。

Abd 型 口縁部は受け口状を呈する。環鈕が付いたドーム状の蓋をもつ。蓋の上に 3 個ないし 4 個の環鈕が付く。底部、耳、鈕の形態の違いから 4 式に分ける。

I 式 環耳。口部、腹部の俯瞰形は楕円形ないし楕円形状の方形。腹部の最大径は上腹部にある。下腹部は緩やかに収束して平底につながる。蓋のあるものとないものがある。有蓋のものは円環鈕が付く、頂部は隆起する。新泰周家莊 2003M3: 5 (図 1: 30)³⁷⁾。

II 式 環耳。口部、腹部の俯瞰形は隅円長方形。腹部の最大径は口部に近づく。腹下部は底部の近くで急に収束して平底となる。底部は「仮圈足」のように見える。蓋の頂部は隆起し、蓋上に円環鈕が付く。長島王溝 1973M1: 4 (図 1: 31)³⁸⁾。

III 式 環耳。口部、腹部の俯瞰形は隅円長方形。腹下部は急に収束する。「仮圈足」は II 式より高くなる。蓋の頂部は隆起し、蓋上に円環形あるいは Q 字形の鈕が付く。長清崗辛 1975M: 7 (図 1: 32)³⁹⁾。

IV 式 形態は III 式と基本的に同じ。腹部に双耳があり、その一つは円鈕銜環形、一つは Q 字形につくる。腹下部はさらに強く収束するようになり、「仮圈足」はさらに高くなる。臨淄商王 1992M1: 113 (図 1: 33)⁴⁰⁾。

Ac 型 無耳。資料数は少ない。曲阜魯故城 1977M305: 1⁴¹⁾。

B 型 圈足。耳の数の違いによって下位の 2 つの型に分ける。

Ba 型 単耳。資料数は少ない。口部と腹部の形態の違いから 4 式に分ける。

I 式 口部外傾、口縁外反。口縁部の傾きは大きい。口部、腹部の俯瞰形は円形に近い。口径は腹径より小さい。口径 / 腹径比はやや小さい。深腹。最大径は腹中部にある。安丘東古廟 1994M: 13 (図 1: 34)⁴²⁾。

II 式 いまのところ当該型式の実物資料は欠如。

III 式 いまのところ当該型式の実物資料は欠如。

IV 式 口縁の傾きは小さくなる。口径と腹径はだいたい同じ。洛陽凱旋路南 1997LM470: 12 (図 1: 35)⁴³⁾。

Bb 型 双耳。蓋、口縁部、圈足の違いから下位の 3 つの型に分ける。

Bba 型 口縁外反。蓋はない。圈足は低い。口縁部と腹部の形態、紋様の特徴から 6 式に分ける。

I 式 口部外傾、口縁外反。口縁部の傾きはやや大きい。聞喜上郭 1974M373: 12 (図 1: 36)⁴⁴⁾。

II 式 いまのところ当該型式の実物資料は欠如。

III 式 いまのところ当該型式の実物資料は欠如。

IV 式 口縁の傾きは小さくなる。頸部はすばまる。双環耳は頸部と腹部の間に位置する。口部、腹部の俯瞰形は楕円形。頸部は多くは無紋。腹上部に 1 ないし 2 周の紋様帯を飾る。臨猗程村 1987M1002: 5 (図 1: 37)⁴⁵⁾。

V 式 口縁の傾きはさらに小さくなる。頸部はすばまる。双環耳は頸部と腹部の間に位置する。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。長径 / 短径比は IV 式より大きくなる。頸部、腹部、圈足、耳の多くは紋様で満たされる。太原金勝村 1988M251: 533 (図 1: 38)⁴⁶⁾。

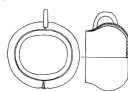

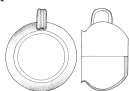
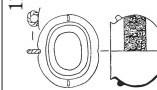
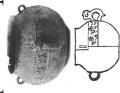





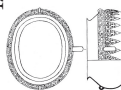
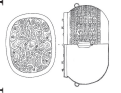
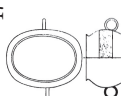


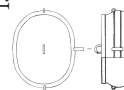
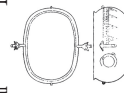
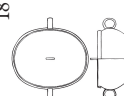
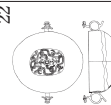
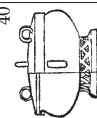
VI 式 口縁の傾きはさらに小さくなる。頸部はすばまる。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形あるいは隅円長方形。長径 / 短径比はさらに大きくなる。頸部、腹部の紋様は繁縷。新絳柳泉 1979M302: 17 (図 1: 39)⁴⁷⁾。

Bbb 型 口縁外反。圈足は高い。蓋には環鈕が付く。臨淄磁村 1977M02: 3 (図 1: 40)⁴⁸⁾。

Bbc 型 口縁部は受け口状。圈足は高い。蓋に鳥獸鈕が付く。順義龍湾屯 1982M (図 1: 41)⁴⁹⁾。

C 型 蹄足。耳の数の違いから下位の 2 型に分ける。

Ca 型 単耳。数量は少ない。口部、腹部、足部の形態の違いから 2 式に分ける。

分期	A 型										B 型			
	Aa 型				Ab 型			Ba 型	Bb 型					
	Aaa 型		Aaac 型		Aab 型	Aba 型	Abb 型	Abc 型	Abd 型	Ba 型	Bba 型	Bbb 型	Bbc 型	
	Aaaa 型	Aaab 型												
一	I 		I 											
二	II 						I 	I 			I 	I 		
三	III 	IV 	II 				II 	II 	II 		II 資料欠			
四	V 		I 				III 	III 	III 	I 	III 資料欠	III 資料欠	40 	

五					II 9 			V 21 	II 24 	I 30 	IV 35 	IV 37 	41
六					III 10 				II 26 	II 31 	V 38 		
七								IV 28 	III 32 	VI 39 			
八								IV 29 	IV 33 				

図 1 - 1 青銅鐃の型式分類

1. 莒県西大莊 1996M1:14 2. 韓城梁帶村 2005M26:139 3. 蓬萊柳格莊 1976M4:55 4. 臨淄劉家新村 2011M28:31 5. 峰城徐樓 2009M2:21 6. 棗陽郭家廟 2002GM17:11 7. 登封告成袁寨 1995M2:180 8. 浙川下寺 1978M3:28 9. 臨蒗程村 1987M10:23:4 10. 荊州熊家 2006PM16:19 11. 臨淄東古城 1984M1:9 12. 海陽嘴子前 1985M2:20 13. 洛陽西工区 2005M8832:26 14. 滕州薛故城尤樓 1978M1:1 15. 海陽嘴子前 1994M4:132 16. 聞喜上郭 1976M6:4 17. 聞喜上郭 1976M4:2 18. 洛陽體育場路 2005M8836:41 19. 海陽嘴子前 1978M1:62 20. 浙川下寺 1978M2:54 21. 臨沂鳳凰嶺 1982M:K35 22. 峰城徐樓 2009M1:11 23. 當陽金家山 1984M247:2 24. 長治分水嶺 1972M270:17 25. 滕州薛故城尤樓 1978M6:2 26. 臨淄相家莊 1996M6X:5 27. 臨淄東夏莊 1984M6P13X22:1 28. 臨淄趙家徐姚 2001M1:2 29. 臨淄商王 1992M1:93-2 30. 新泰周家莊 2003M3:5 31. 長島王溝 1973M1:4 32. 長清崗辛 1975M:7 33. 臨淄商王 1992M1:113 34. 安丘東古廟 1994M:13 35. 洛陽凱旋路南 1997LM470:12 36. 聞喜上郭 1974M373:12 37. 臨蒗程村 1987M1002:5 38. 太原金勝村 1988M251:533 39. 新絳柳泉 1979M302:17 40. 淄博磁村 1977M02:3 41. 順義龍灣屯 1982M

I 式 口部、腹部の俯瞰形は楕円形。長径 / 短径比はやや小さい。単耳と向かい合う側の腹部が、内側にくぼむ特徴をもつ。低い蹄足が付く。滕州薛故城出土 (図 1: 42)⁵⁰⁾、谷城新店 1977M (図 1: 43)⁵¹⁾。

II 式 口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。長径 / 短径比は I 式より大きくなる。蓋には環鈕が付き、蓋頂部は若干隆起する。蹄足は I 式より高い。長清仙人台 1995M5: 84 (図 1: 44)⁵²⁾。

Cb 型 双耳。口縁部、腹部、足部の違いから下位の 4 型に分ける。

Cba 型 口縁外反。腹部に乳釘紋を飾る。低い蹄足をもつ。蓋の違いからさらに下位の 2 型に分ける。

Cbaa 型 蓋には環鈕が付く。蓋頂部の中心に環鈕が一つ付き、周囲にいくつかの環鈕を配する。口縁部と腹部の違いから 2 式に分ける。

I 式 口縁の傾きはやや大きい。腹部はやや深い。いまのところ当該型式の実物資料は欠如。参考資料として青州楊姑橋 1972SQY: 5 (図 1: 45)⁵³⁾。

II 式 口縁の傾きは小さくなり、腹部は浅くなる。腹部の最大径は腹中部にある。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。長清仙人台 1995M5: 75 (図 1: 46)⁵⁴⁾。

Cbab 型 蹄足。鈕付きの蓋をもつ。蓋頂部の中心に環鈕を付け、周囲にいくつかの蹄足鈕を配する。口縁部と腹部の違いから 3 式に分ける。

I 式 口縁の傾きは大きい。腹部はやや深い。いまのところ当該型式の実物資料は欠如。参考資料として上掲の青州楊姑橋 1972SQY: 5 (図 1: 45)。

II 式 いまのところ当該型式の実物資料は欠如。

III 式 口縁の傾きは小さい。腹部の最大径は上部に移動する。口部、腹部の俯瞰形は長楕円形。蓋は頂部がやや高く隆起。陽谷景陽崗 1979M (図 1: 47)⁵⁵⁾。

Cbb 型 口縁外反。低い蹄足が付く。蓋の違いから下位の 2 型に分ける。

Cbba 型 板状の把手をもち、鈕の付いた蓋をもつ。口縁部と足部の違いから 3 式に分ける。

I 式 口縁の傾きはやや大きい。蹄足は素朴な形状のもので、器底部に付く。いまのところ当該型式の実物資料は欠如。参考資料として洛陽西工区 2005M8759: 8 (図 1: 48)⁵⁶⁾。

II 式 口縁の傾きは小さくなる。蹄足の装飾は繁縷で、腹下部に付く。新鄭李家楼 1923M: p126 (図 1: 49)⁵⁷⁾、新鄭鉄嶺 2011M1405: 3 (図 1: 50)⁵⁸⁾。

III 式 蹄足は腹中部に付く。新鄭鄭韓路 2004M6: 3 (図 1: 51)⁵⁹⁾。

Cbbb 型 蹄足が付き、鈕蓋をもつ。口縁部の違いから 2 式に分ける。

I 式 口縁の傾きはやや大きい。いまのところ当該型式の実物資料は欠如。参考資料として上掲の洛陽西工区 2005M8759: 8 (図 1: 48)。

II 式 口縁の傾きは小さい。洛陽玻璃廠 1966M439: 5 (図 1: 52)⁶⁰⁾。

Cbc 型 直口ないし口部内傾。口縁部としてのつくりはない。低い蹄足が付く。洛陽西工区 2005M8830: 6 (図 1: 53)⁶¹⁾。

Cbd 型 口部は受け口状。高い蹄足が付く。蓋の違いから下位の 2 つの型に分ける。

Cbda 型 環鈕の蓋が付く。満城採石廠 1971M (図 1: 54)⁶²⁾。

Cbdb 型 鳥獸鈕の蓋が付く。脚部の形態の特徴から 2 式に分ける。

I 式 蹄足は腹下部に付く。易県燕下都 1964M31: 2 (図 1: 55)⁶³⁾。

II 式 蹄足は腹中部に付く。三河双村 1975M03 (図 1: 56)⁶⁴⁾。

D 型 人形の脚をもつ。わずかに臨淄河崖頭 1964 採集の 1 点が知られる (図 1: 57)⁶⁵⁾。



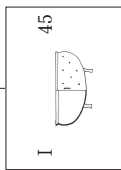
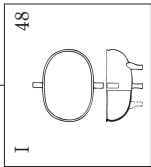
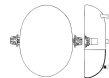
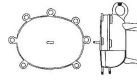
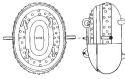

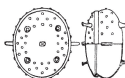



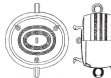

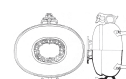

分期	C 型								D 型
	Ca 型	Cb 型				Cbc 型	Cbd 型		
		Cba 型		Cbb 型			Cbda 型	Cbdb 型	
		Cbaa 型	Cbab 型	Cbba 型	Cbbb 型				
一									
二									
三	I  42  43		 45 I	 48 I		 53			
四	II  44	II  46	資料欠	II  49					
五			III  47	II  50	II  52		 54 I	 55	 57
六				III  51				II  56	
七									

図 1 - 2 青銅甬の型式分類 (続)

42. 滕州薛放城出土 43. 谷城新店 1977M 44. 長清仙人台 1995M5:84 45. 青州楊姑橋 1972SQ:5 46. 長清仙人台 1995M5:75 47. 陽谷景陽崗 1979M 48. 洛陽西工区 2005M8759:8 49. 新鄭李家樓 1923M:p126 50. 新鄭鉄嶺 2011M1405:3 51. 新鄭鄭韓路 2004M6:3 52. 洛陽玻璃廠 1966M439:5 53. 洛陽西工区 2005M8830:6 54. 滿城採石廠 1971M 55. 易縣燕下都 1964M31:2 56. 三河及村 1975M03 57. 臨淄河崖頭 1964 採集

(二) 分期と年代

青銅器の大部分は年代を示すような銘文をもっていないが、墓など同一単位に共伴した器物から、出土単位の年代を推定できる場合が少なくない。以下では各型式に属する代表的資料を取り上げて、推定される青銅器の年代（あるいは青銅器を出土した考古学的単位の年代）について検討する。

Aaaa 型Ⅰ式〔莒県西大莊 1996M1: 14〕 発掘簡報は青銅器が出土した墓について「西周晩期から春秋初期、その下限は春秋初期より晚くない」とする。

Aaaa 型Ⅱ式〔韓城梁帶村 2005M26: 139〕 発掘簡報は当該墓出土の「五鼎、四簋および方壺、甗等はいずれも晋侯墓地の晋文侯 M93 の同器種と、その形態、紋様ともに特徴が一致するか近似している。晋文侯 M93 の年代は春秋初期である。したがって梁帶村 M26 の年代もそれと同じかやや晚い」とする。晋文侯の在位は前 779 ～ 745 年である。梁帶村 M26 の年代もこれに近い前後の時期と考えられよう。

Aaaa 型Ⅲ式〔蓬萊柳格莊 1976M4: 55〕 その腹部の紋様は洛陽中州路 1954M2415: 8 の腹部の紋様と特徴が同じである。洛陽中州路 1954M2415 の年代は前 672 ～ 623 年⁶⁶⁾と考えられ、蓬萊柳格莊 1976M4 の年代もおおよそその前後と考えられる。

Aaaa 型Ⅳ式〔臨淄劉家新村 2011M28: 31〕 発掘簡報は墓の年代を春秋中期とする。当該墓出土の青銅立耳折縁鼎 M28: 4、青銅敦 M28: 30、青銅盤 M28: 26 等はそれぞれ洛陽中州路 1954M2415（前 672 ～ 621 年）出土の青銅鼎 M2415: 4、青銅敦 M2415: 7、青銅盤 M2415: 9 と特徴が一致するか近似する。したがって年代は後者に近いと考えられるが、青銅匜 M2415: 8 の形態が広口で蹄足付きである。このことから、前者の年代は後者よりやや晚いことが推測できる。

Aaaa 型Ⅴ式〔峰城徐樓 2009M2: 21〕 当該墓被葬者の濫公宜咎と同墓の北約 5m にある濫夫人叔子の墓 M1 は夫婦異穴合葬墓を構成している。M1 からは、宋の共公（前 588 ～ 576 年）が濫叔子のために鑄造した青銅鼎、青銅鋪等の青銅器が多数出土している。簡報はこの 2 基の墓の埋葬年代は近い関係にあると判断している。

Aaab 型Ⅰ式〔棗陽郭家廟 2002GM17: 11〕 発掘報告は当該墓の年代を「西周末期に近い春秋早期の前段、前 770 ～ 700 年（春秋初期）」と判断している。

Aaab 型Ⅱ式〔登封告成袁窯 1995M2: 180〕 発掘簡報は当該墓の年代を「春秋前期」とする。出土した青銅器は本稿のいう春秋初期から春秋早期への過渡的段階に位置しており、青銅圈足盤 M2: 176、青銅扁体盃 M2: 179 は、春秋初期の古い特徴を維持している。一方、青銅簠 M2: 178 の口部はすでに変化して長い直壁状を呈しており、それは前 680 ～ 667 年の原仲簠⁶⁷⁾に類似する。当該墓の年代はこれに近いものであろう。

Aaac 型Ⅰ式〔浙川下寺 1978M3: 28〕 当該墓から出土した多数の蓮子棚銅器が年代の参考になる。蓮子棚は『左伝』に記載のある前 548 年没の蓮子馮のことであろう⁶⁸⁾。劉彬微はこの墓を楚系青銅器第三期の典型的青銅器群であると論じ、年代を前 600 ～ 530 年としている⁶⁹⁾。

Aaac 型Ⅱ式〔臨潁程村 1987M1023: 4〕 ①当該墓出土の青銅敦 M1023: 5 は前 477 ～ 469 年の宋右師延敦⁷⁰⁾に類似する。②当該墓出土の陶鬲 M1023: 6 は侯馬盟誓遺跡 K239 出土の陶鬲〔図二: 88〕⁷¹⁾に類似する。侯馬盟誓遺跡の年代については、前 497 ～ 489 年⁷²⁾、前 490 ～ 458 年⁷³⁾、前 470 年前後⁷⁴⁾、という 3 種の見解があるが、いずれも春秋晩期（前 530 ～ 453 年）の範囲にあるといえよう。これらのことから臨潁程村 1987M1023 の年代は春秋晩期と考えられる。

Aaac 型Ⅲ式〔荊州熊家冢 2006PM16: 19〕 当該墓は盗掘の状態がはなはだしいという問題を抱えている。発掘簡報は「副葬されていた玉器の多くが戦国早期、中期の特徴をもっている」とする。そのほかの判断材料が欠如しており、ここでは戦国早中期と考えておく。

Aab 型Ⅰ式〔淄東古城 1984M1: 9〕 発掘簡報は「西周晩期から春秋早期」と判断している。西周、東周の境から春秋初期の頃に位置すると考えられる。

Aab 型Ⅱ式〔海陽嘴子前 1985M2: 20〕 当該墓出土の青銅立耳折縁鼎 M2: 12、青銅敦 M2: 30 は洛陽中州路 1954M2415 出土の青銅立耳折縁鼎 M2415: 4、青銅敦 M2415: 7 と特徴が同じである。中州路 M2415 の年代は前 672 ～ 623 年⁷⁵⁾と考えられ、海陽嘴子前 1985M2 の年代もそれに近いといえる。

Aab 型Ⅲ式〔洛陽西工区 2005M8832: 26〕 ①当該墓出土の青銅立耳折縁鼎 M8832: 3 は光山宝相寺 1983MG2: A1 に近い。後者の年代の下限は前 648 年に楚が黄を滅ぼした時点より晩くはなく、上限は前 680 年前後と推定される⁷⁶⁾。②青銅附耳子母口鼎 M8832: 11 は淅川下寺 1979M7: 6、7 と近似しており、後者は楚系青銅器第二期（前 680 ～ 600 年⁷⁷⁾）の青銅器である。③青銅簠 M8832: 18 は前 680 ～ 667 年の原仲簠に近い。以上のことから洛陽西工区 2005M8832 の年代は前 680 ～ 600 年の間と推定することができる。

Aba 型Ⅰ式〔滕州薛故城尤樓 1978M1: 1〕 発掘簡報は当該墓を春秋早中期とする。同墓出土の青銅立耳折縁鼎と前 672 ～ 623 年の洛陽中州路 1954M2415 の鼎⁷⁸⁾の特徴は同じである。このほか青銅簠 M1: 76 と前 680 ～ 667 年の原仲簠の形態、紋様、大きさがいずれも近似する。したがってこの墓の年代は前 680 ～ 600 年の間と推定できる。ただし、同墓出土の青銅鉶は、口縁の傾きがやや大きく、口部、腹部の俯瞰形は円形に近く、腹部の特徴は Aaaa 型Ⅱ式や Aab 型Ⅰ式と同じであり、これらはいずれも早期段階の特徴である。したがって当該青銅鉶の年代は、墓の埋葬年代より古くさかのぼる可能性が高く、おそらく伝世されたのちに副葬された早期の遺物であろう。

Aba 型Ⅱ式〔海陽嘴子前 1994M4: 132〕 発掘報告は当該墓の年代を春秋晩期の早い段階とする。同墓出土の青銅立耳折縁鼎、平底敦、鉶などは前 672 ～ 623 年の洛陽中州路 1954M2415⁷⁹⁾出土の鼎、敦、鉶と近く、年代も接近していると考えられる。

Aba 型Ⅲ式〔聞喜上郭 1976M6: 4〕 当該器の腹部の紋様は洛陽中州路の青銅敦 1954M2415: 7 の器蓋や青銅匜 M2415: 8 腹部の紋様と特徴が同じである。また同墓出土の青銅鼎 M6: 11 は洛陽中州路の青銅鼎 1954M2415: 4 に近い。洛陽中州路 1954M2451 の年代は前 672 ～ 623 年⁸⁰⁾であり、聞喜上郭 1976M6 の年代もまたこの間に位置すると考えられる。

Abb 型Ⅰ式 この型式についてはいまのところ実物資料や関連資料を欠如している。

Abb 型Ⅱ式〔洛陽体育场路 2005M8836: 41〕 ①当該墓出土の青銅立耳折縁鼎 M8836: 46、51 は光山宝相寺 1983MG2: A1、A2 の青銅鼎に近い。宝相寺 M1983 の年代は前 680 ～ 648 年⁸¹⁾の間にある。②附耳子母口鼎 M8836: 61 は淅川下寺 1979M6、7 に近い。下寺 M7 は楚系青銅器第二期（前 670 ～ 600 年⁸²⁾）に相当する。③青銅簠 M8836: 44 は前 680 ～ 667 年の原仲簠⁸³⁾に近い。④青銅盤 M8836: 62 は海陽嘴子前 1994M4: 95 に近い。以上のことから洛陽体育场路 2005M8836 の年代は、前 680 ～ 600 年の間にあると推定できる。

Abb 型Ⅳ式〔淅川下寺 1978M2: 54〕 当該墓から多く出土している蓮子匜銅器が参考になる。蓮子匜とは『左伝』に記載のある蓮子馮（前 548 年没⁸⁴⁾）のことである。劉彬徽は当該墓の一括青銅器を楚系青銅器第三期の典型的な青銅器群（前 600 ～ 530 年⁸⁵⁾）としている。

Abb 型Ⅴ式〔臨沂鳳凰嶺 1982M: K35〕 発掘報告は当該墓を春秋晩期とする。前 5 世紀の前半

と考えられる。

Abc 型 I 式 [峰城徐楼 2009M1: 11] 当該墓から多く出土している宋の共公 (前 589 ~ 576 年) を作器者とする青銅鼎, 青銅鋪等が参考になる。墓の年代もこの前後の春秋中期と考えられる。

Abc 型 II 式 [長治分水嶺 1972M270: 17] [滕州薛故城尤楼 1978M6: 2] 長治分水嶺の発掘簡報は当該墓を春秋晩期あるいは戦国早期⁸⁶⁾と考えるのに対して, 発掘報告は春秋中期とする。本稿は簡報のいう春秋晩期が妥当ではないかと考える。その理由は, ①同墓出土の附耳子母口青銅鼎, 盤, 壺等が春秋晩期の臨猗程村 1987M1002 出土の青銅鼎, 盤, 壺に近い。②臨猗程村 1987M1002 から出土した青銅敦は, 宋右師延敦 (前 477 ~ 469 年)⁸⁷⁾に類似し, また青銅簠が宋公銅簠 (前 517 ~ 469 年)⁸⁸⁾あるいは蔡侯申簠 (前 518 ~ 491 年)⁸⁹⁾に類似する。いずれも春秋晩期 (前 530 ~ 453 年) に相当している。つぎに同じく Abc II 式の [滕州薛故城尤楼 1978M6: 2] については, 発掘簡報は春秋晩期とし, 安徽寿県蔡昭侯 (前 518 ~ 491 年) 墓に相当すると考えている。

Abc 型 III 式 [臨淄相家荘 1996M6X: 5] [臨淄東夏荘 1984M6P13X22: 1] 発掘報告はこの両墓の年代を戦国早期としている。

Abc 型 IV 式 [臨淄辛店 2010M2: 20] [臨淄趙家徐姚 2001M1: 2] [臨淄商王 1992M1: 93-2] 臨淄辛店 2010M2 については, 発掘簡報が戦国早期とする。しかし本稿はこの年代はやや古すぎると考える。その理由は, ①同墓出土の青銅器のうち, 青銅壺 M2: Q17 は江陵望山 1965M1: 28⁹⁰⁾に類似する。②青銅甗 M2: Q3 は荊門包山 1986M2: 77 に類似する。③青銅匱 M2: Q18 は江陵望山 1965M1: 51 および荊門包山 1986M2: 125 に類似する。④上記 2 基の楚墓は, 出土した竹簡を根拠に, 江陵望山 1965M1 が楚の威王期または懷王前期⁹¹⁾ (前 340 ~ 312 年), 荊門包山 1986M2 が前 316 年⁹²⁾と考定され, いずれも戦国中期に相当する。したがって臨淄辛店 2010M2 の年代は戦国中期と考えられる。以上のほか, 臨淄趙家徐姚 2001M1: 2 については, その発掘簡報が戦国晩期とする。また臨淄商王 1992M1: 93-2 については, 発掘簡報が「前 266 ~ 221 年の間」とする。

Abd 型 I 式 [新泰周家荘 2003M3: 5] 発掘報告は当該墓の年代を春秋晩期の早い段階とする。

Abd 型 II 式 [長島王溝 1973M1: 4] 発掘簡報は当該墓の年代を「戦国早期のやや早い段階で春秋晩期に接近している」とする。

Abd 型 III 式 [長清崗辛 1975M: 7] 発掘簡報は当該墓の年代について, 「主要な器物の器形と臨淄齊国故城出土の戦国中期の器物が類似している」とする。また同墓の青銅壺と江陵望山 1965M1: 28 は近似しており⁹³⁾, 同墓の年代は戦国中期と考えられる。

Abd 型 IV 式 [臨淄商王 1992M1: 113] 先にも触れたように当該墓の年代について発掘簡報は「前 266 ~ 221 年」とする。

Ac 型 [曲阜魯国故城 1977M305: 1] その腹部の紋様が洛陽中州路 1954M2415 出土の青銅敦蓋部や青銅匱腹部の紋様に近い。年代は前 672 ~ 623 年の前後と考えられる。

Ba 型 I 式 [安丘東古廟 1994M: 13] 発掘簡報は当該墓の年代を春秋期と幅広く指摘している。同墓出土の青銅鼎, 鬲, 疊, 盤, 匱は典型的に西周と東周の境の時期の青銅器であり, 年代は西周晩期から春秋初期の間に相当する。

Ba 型 II 式と Ba 型 III 式は, 本稿が仮定する型式であり, いまのところ実物資料は欠如している。

Ba 型 IV 式 [洛陽凱旋路南 1997LM470: 12] 発掘簡報は当該墓の年代を春秋晩期とする。

Bba 型 I 式 [聞喜上郭 1974M373: 12] 発掘簡報は当該墓の年代を春秋初期とする。

Bba 型 II 式と Bba 型 III 式は, 本稿が仮定する型式であり, いまのところ実物資料は欠如している。

Bba 型 IV 式 [臨猗程村 1987M1002: 5] 当該墓出土の青銅敦 M1002: 1 は, 宋右師延敦 (前 477

～469年)⁹⁴⁾に近い。また青銅簠 M1002: 21, 40 は宋公緡簠(前517～469年)⁹⁵⁾および蔡侯申簠(前518～491年)⁹⁶⁾に近い。したがって墓の年代は春秋晩期と考えられる。

Bba 型 V 式〔太原金勝村 1988M251: 533〕 当該墓の年代は前433年前後と考えられており、戦国早期に相当する⁹⁷⁾。

Bba 型 VI 式〔新絳柳泉 1979M302: 17〕 発掘簡報は当該墓の年代として、「前400年以前の戦国早期に位置する」とするが、やや古く考えすぎているように思われる。同墓の出土品として、①陶鼎 M302: 1 は腹部が浅く、太く短い蹄足をもち、襠部は低い。これは陝県后川 1957M2040: 72 の青銅鼎や輝県趙固 1951M1: 87 陶鼎に近い。陝県后川 1957M2040 と輝県趙固 1951M1 の年代はいずれも戦国中期である⁹⁸⁾。②原始瓷罐 M302: 13 は、淮陰高莊⁹⁹⁾ 1978M1: 0151 や麻城白骨墩¹⁰⁰⁾ 1984M1: 11 の原始瓷罐に近い。これらの墓はいずれも戦国中期である。したがって、新絳柳泉 1973M302 の年代は戦国中期と考えるのが妥当である。

Bbb 型〔淄博磁村 1977M02: 3〕 当該器の腹部と蓋部の形態が Abb 型 IV 式に近い。ただし圈足を付加した特徴をもつ。当該墓出土の青銅鼎 M02: 1 および青銅平底墩 M02: 2 は、長清仙人台 1995M5: 72 の青銅鼎、同 M5: 79 の青銅平底敦に近い。長清仙人台 1995M5 の年代について発掘簡報は、「春秋中期晩段に相当し、その下限は襄公十三年(前560)より晩くはない」とする。したがって淄博磁村 1977M02 の年代は春秋中期と考えるのが妥当である。

Bbc 型〔順義龍灣屯 1982M〕 発掘簡報は当該墓の年代を、幅広く戦国期とするが、趙化成氏は「春秋戦国の際」すなわち「前5世紀前半」とする¹⁰¹⁾。

Ca 型 I 式〔谷城新店 1977M〕 当該型式を出土した墓の谷城新店 1977M について、発掘簡報は「春秋中期前段に相当するが、上限は春秋早期にさかのぼる可能性がある」とする。劉彬徽氏は楚系青銅器の第二期(前670～600年)に相当するとする¹⁰²⁾。劉氏の指摘は妥当であろう。

Ca 型 II 式〔長清仙人台 1995M5: 84〕 発掘簡報は同墓の年代として、「春秋中期晩段に相当し、下限は襄公十三年(前560年)」とする。

Cbaa 型 I 式は、本稿が仮定する型式であり、いまのところ実物資料は欠如する。ただし参考資料として青州楊姑橋 1972SQY: 5 をあげることができる。発掘簡報はこの青銅器が採集品であるため、年代について言及していない。その形態は口縁部が幅広で、口縁の傾きがやや大きい。口縁部と腹部の形態は Aba 型 III 式に近い。当該型式の年代を暫定的に春秋早期のやや晩い段階と考えておきたい。

Cbab 型 I 式は、本稿が仮定する型式であり、いまのところ実物資料は欠如する。青州楊姑橋 1972SQY: 5 が参考になる。

Cbab 型 II 式は、本稿が仮定する型式であり、いまのところ実物資料は欠如する。

Cbab 型 III 式〔陽谷景陽崗 1979M〕 当該型式を出土した陽谷景陽崗 1979M について、発掘簡報は春秋晩期とする。

Cbba 型 I 式は、本稿が仮定する型式であり、いまのところ実物資料は欠如する。参考資料として洛陽西工区 2005M8759: 8 をあげることができる。発掘報告は同墓の埋葬年代を春秋晩期としており、基本的に妥当であろう。ただし、M8759: 8 の口縁部はやや幅広で、口縁の傾きは大きい。口縁部と腹部の形態は Abb 型 IV 式に近い。おそらくやや早い時期の器物が春秋晩期の墓に副葬された例であろう。本稿は器物の年代を春秋早期と中期の境の時期と推測する。

Cbba 型 II 式〔新鄭李家楼 1923M: p126〕〔新鄭鉄嶺 2011M1405: 3〕 新鄭李家楼 1923M: p126 については、同墓出土の王子嬰次炉が参考になる。王国維の考証によれば、同器は楚の令尹子重が前

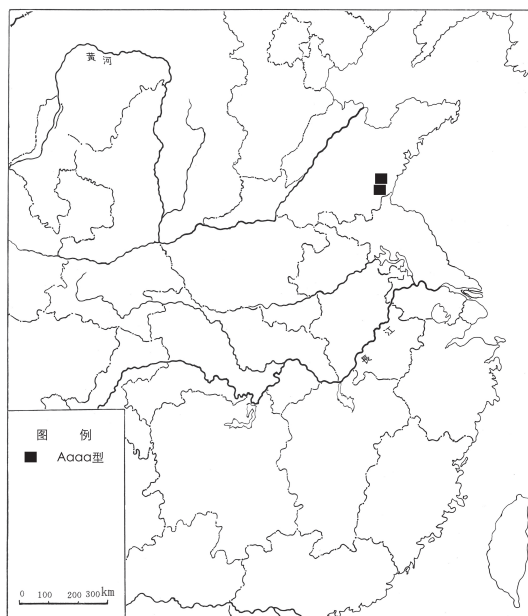


圖 2 西周晚期分布圖

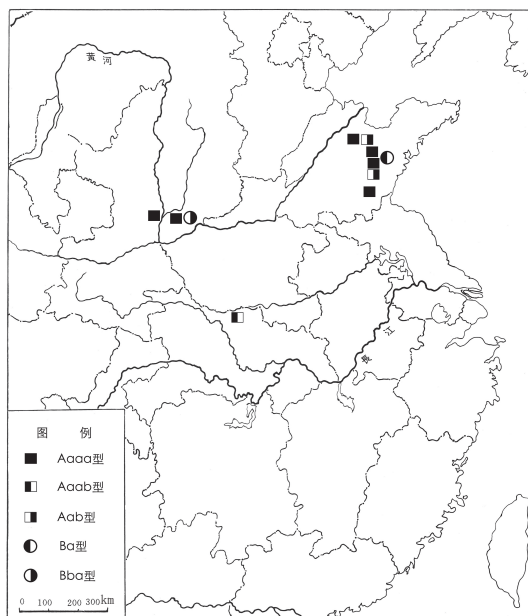


圖 3 春秋初期分布圖

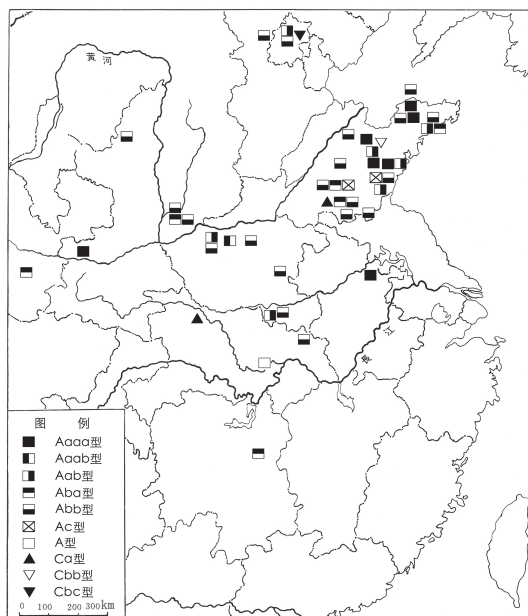


圖 4 春秋早期分布圖

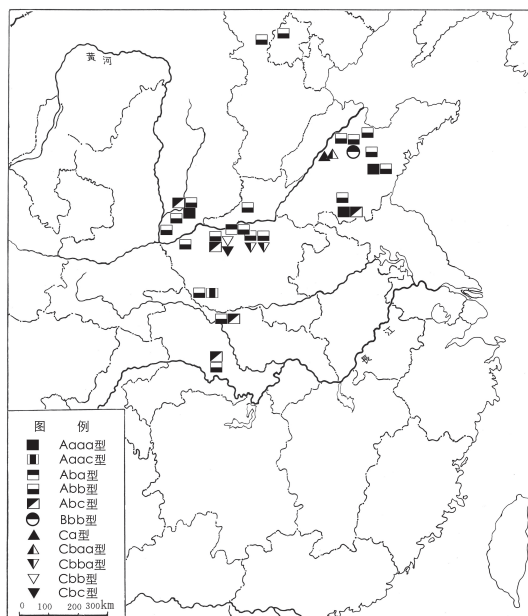


圖 5 春秋中期分布圖

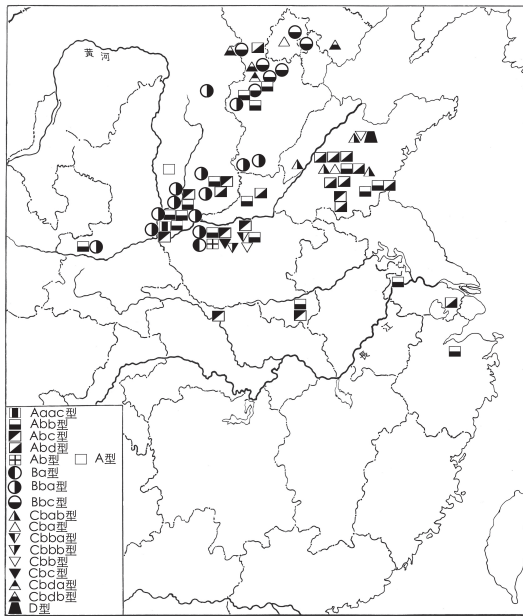


图6 春秋晚期分布图

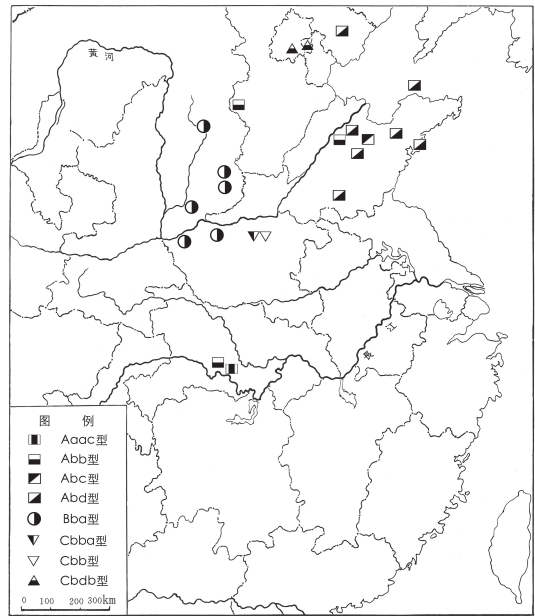


图7 战国早期分布图

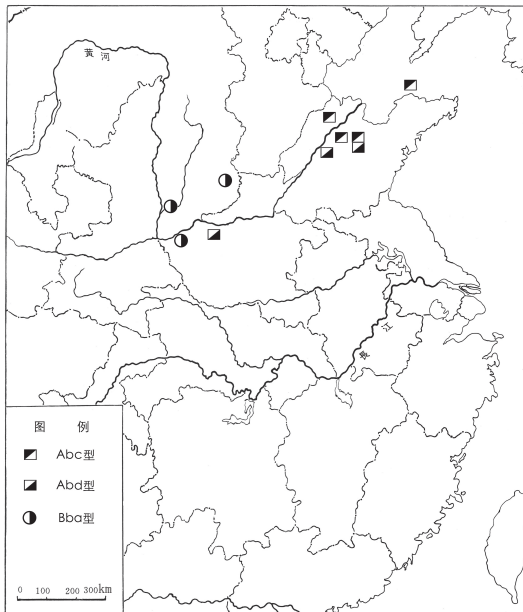


图8 战国中期分布图

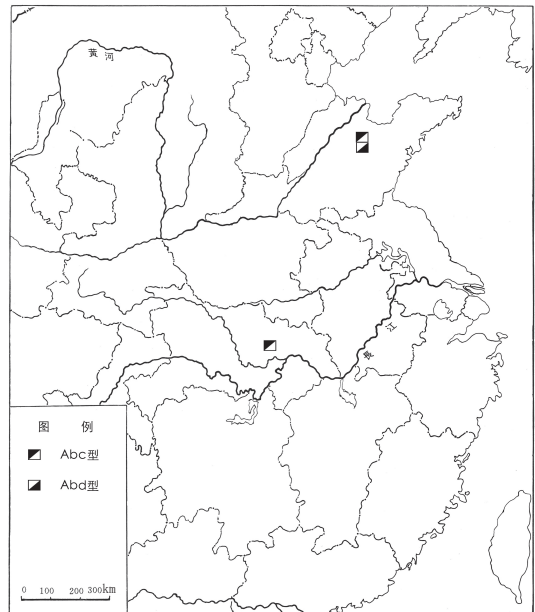


图9 战国晚期～秦、汉初分布图

575 年の鄢陵の戦いの後にのこしたものだという。李学勤¹⁰³⁾は当該墓の青銅器が最も近いのは侯馬上馬 1961M13 (前 572 ~ 542 年)¹⁰⁴⁾の青銅器であるとし、同墓はおそらく、前 571 年没の鄭成公あるいは前 566 年没の鄭僖公の墓であろうと推定する。当該墓の被葬者が誰であるにせよ、同墓は春秋中期の墓と考えられよう。新鄭鉄嶺 2011M1405: 3 については、発掘簡報が春秋晩期の晩段とする。

Cbba 型Ⅲ式 [新鄭鄭韓路 2004M6: 3] 発掘簡報は当該墓の年代を春秋晩期のやや早い段階とするがこの推定には問題がある。理由はつぎのようである。①発掘簡報は、同墓出土の青銅鼎について「山西太原趙卿墓 (M251) 出土の鋪首環耳螭紋蹄足升鼎および臥牛鈕蹄足鼎に、その器形と紋様が近いが、その趙卿墓の年代について、春秋晩期説と戦国中期説がある」と指摘したうえで、春秋晩期説を採用している。しかし趙卿墓の年代は、前 433 年前後の戦国早期に相当するものであり、この点について本稿筆者の一人の路国権は詳論したことがある¹⁰⁵⁾。②先にも指摘したように、鄭鉄嶺 2011M1405 の年代は春秋晩期である。同墓と新鄭鄭韓路 2004M6 の出土器物を比較すると、青銅盤 M6: 4 の双耳は青銅盤 M1405 のそれよりも強く外反する特徴をもつ。また陶鬲 M6: 10, 13 は陶鬲 M1405: 19, 21 に比較して、器表を飾る粗い縄紋が、鬲の襠部 (底部) から肩部にまで広く施紋される特徴をもつ。これらの特徴はいずれも年代がやや晚いことを示唆している。したがって、新鄭鄭韓路 2004M6 の年代は戦国早期とするのが妥当である。

Cbbb 型Ⅰ式は、本稿が仮定する型式であり、いまのところ実物資料は欠如する。参考として洛陽西工区 2005M8759: 8 をあげることができる。

Cbbb 型Ⅱ式 [洛陽玻璃廠 1966M439: 5] 発掘簡報は当該墓の年代について春秋晩期とする。

Cbc 型 [洛陽西工区 2005M8830: 6] 発掘簡報は当該墓の年代について春秋中期とする。

Cbda 型 [滿城採石廠 1971M] 当該型式を出土した墓に共伴した青銅鼎は、侯馬上馬の 1973M1004: 22¹⁰⁶⁾に類似する。その上馬 M1004 の青銅浴缶は、寿県西門内 1955M: 22 蔡侯申缶 (前 518 ~ 491 年)¹⁰⁷⁾に類似し、その年代は春秋晩期のやや早い段階と考えられる。

Cbdb 型Ⅰ式 [易県燕下都 1964M31: 2] 発掘簡報は当該墓の年代について春秋晩期とする。

Cbdb 型Ⅱ式 [三河双村 1975M03] 発掘簡報は当該型式を出土した墓について戦国早期とする。

D 型 [臨淄河崖頭 1964 採] 同資料を掲載した図録は、その年代を春秋期とするが、やや幅が広すぎる。その器蓋と腹部の形態は Abd 型Ⅰ式に近い。ただし底部に人形の脚をもつという特徴がある。腹部を飾る散虺紋は主として春秋晩期に流行したものであり、本稿はこの資料の年代を春秋晩期と推定する。

以上の分析をまとめると、青銅鐏を 8 期に分けることができる。第一期：西周晩期 (およそ前 877 ~ 771 年)¹⁰⁸⁾、第二期：春秋初期 (およそ前 770 ~ 680 年)、第三期：春秋早期 (およそ前 680 ~ 600 年)、第四期：春秋中期 (およそ前 600 ~ 530 年)、第五期：春秋晩期 (およそ前 530 ~ 453 年)、第六期：戦国早期 (およそ前 453 ~ 370 年)、第七期：戦国中期 (およそ前 370 ~ 280 年)、第八期：戦国晩期から秦代 (およそ前 280 ~ 207 年)。各地出土の青銅鐏について、付表 2 にまとめた¹⁰⁹⁾。

(三) 地理的分布と型式間の系譜関係

以上に論じた型式分類および分期と年代考定の基礎のうに、青銅鐏の型式別の地理的分布 (図 2 ~ 図 9)¹¹⁰⁾と、型式間の系譜関係についてまとめておく。青銅器の一器種の時空間の動きをとらえることで、その背景にある歴史動向の一端をうかがうことを期待したい。

Aaaa 型は 24 点発見されている。①最も古い 2 点は西周晩期の沂沭河流域の莒国の墓から出土している。②春秋初期には分布範囲が拡大し、莒国から北に向かって齊国に広がった。沂沭河—淄河流域の莒国、齊国の両地で 4 点が出土している。一方、古済水をさかのぼって西に広がり、河汾地区（山西南部）の晋国で 3 点、芮国（陝西東南部）で 1 点が出土している。③春秋早期には 10 点が知られる。そのうち 7 点は沂沭河—淄河流域とそれ以東の莒国、齊国等で出土しており、その他の 2 点が淮河中流域の安徽鳳陽の鐘離国墓から、1 点が陝西鳳翔の秦国墓から出土している。④春秋中期には 4 点が出土している。1 点は泗水流域の山東峰城の濫国国君夫人墓から、2 点は山東沂水紀王崗から、1 点は山西侯馬晋国墓から出土している。同型式の 24 点のうち、沂沭河—淄河流域の莒国、齊国両地の年代が最も古い。数量も多く、分布も集中している。当該型式の拡散の起点となったという見方ができるであろう。

Aaab 型は Aaaa 型をもとにして、腹壁を瓦棱形に飾ることで生まれた型式である。2 点が知られ、1 点は湖北棗陽郭家廟の春秋初期曾国墓から、1 点は河南登封の春秋早期鄭国墓から出土している。

Aaac 型はおそらく Aaaa 型早期の「口縁部としてのつくりがなく、深腹で、口部、腹部の俯瞰形が円形に近く、単耳」という特徴をもとに生まれた一種の先祖返り的な型式と思われる。同型式は同時期に流行していた「口縁外反、浅腹で、口部、腹部の俯瞰形が長楕円形、双耳」という特徴とは大きく異なったものである。Aaac 型は現在までに 3 点発見されており、①春秋中期の 1 点が河南淅川の楚墓から出土している。②春秋晩期の 1 点が山西臨猗晋国墓から出土している。③戦国早中期の 1 点が湖北荊州楚墓から出土している。Aaac 型は Abc 型の出現に対して直接的に影響をあたえた可能性もある。

Aab 型は Aaaa 型をもとにして、2 つの円鈕をくわえることで生まれた型式である。Aab 型はあわせて 11 点出土している。①春秋初期には 2 点が知られ、齊国、莒国から出土している。②春秋早期には 9 点が知られ、4 点が齊、莒の両国から、2 点が河南洛陽の周墓から、3 点が河南信陽の樊国墓と北京延慶の山戎墓から出土している。11 点中 6 点が齊、莒両国で出土しており、出現時期は最も早い。齊国、莒国地区において生まれた型式という見方ができるであろう。

Ab 型は 4 つの下位の型に分けられた。最も早くに出現したのが Aba 型で、Aab 型をもとにして単耳を付加して生まれたものである。Aba 型は 9 点出土していて、①春秋早期には 8 点が知られ、そのうち 6 点が山東曲阜の魯国墓、滕州の薛侯墓、海陽の齊国墓、甘肅礼県の秦国墓、張掖の西戎墓、湖南湘潭の越人墓から出土している。そのほかの 2 点は、山西聞喜の晋国墓から出土している。②春秋中期は 1 点が知られ、河南滎陽の鄭国墓から出土している。形態から見て 9 点のうち山東滕州の薛侯墓出土例が最も古く、春秋初期にさかのぼる可能性がある。ただし、Aba 型の継続時間は比較的短く、春秋早期に集中している。一方でその分布範囲はきわめて広大で、春秋初期から早期に突然爆発的に拡散した状況が認められる。そののち消失し、後発の Abb 型に取って代わられたと考えられる。春秋早、中、晩期には、Aba 型から次々と Abb 型、Abc 型、Abd 型が派生し、それぞれに特徴ある時間空間の分布を示している。

Abb 型は Aba 型をもとに肩部の円鈕を省略して生まれた型式である。①その最も古い例は春秋早期のもので、先行する Aaaa 型から比較的短期間のうちにその主流の地位を奪ってしまった。知られる出土点数は 35 点に達し、同時期の総点数の 47% に相当する。地理的分布は Aaaa 型と重なりあいながらもさらに拡大している。分布の重心は東方の齊国、莒国を中心とする海岱地区にあるが、中原河洛地区の周と鄭国、汾河下流域の晋国、西部の陝西北部の狄、北方燕山地区の山戎、南方江淮地区の蔡国と楚国にいたるまでその分布範囲は広大である。②春秋中期には Abb 型は発展

の頂点をむかえ、同時期のなかで68%をしめるようになる。その分布の範囲は春秋早期とほぼ同じであるが、分布の重心は中原河洛地区の周、鄭国と山西南部河汾地区の晋国に移る（ただしこの現象は、山東地区でこの時期の墓の発見例自体が少ないことと関係している可能性もある）。③春秋晩期になるとAbb型の地理的分布範囲は春秋中期よりさらに拡大する傾向があり、西部の陝西鳳翔秦国墓、南方の江蘇六合呉墓で各1点が出土している。ただし、その総点数の同時期に占める割合は急速に下降する。山東海岱地区では新興のAbd型に、山西南部河汾地区では晋国の独自色をもつBba型に、鄭国では鄭国の独自色をもつCbb型に取って代わられる様相となる。④戦国早期になるとAbb型の知られる資料はわずかに3点で、山東済南斉国墓、河北平山中山国墓、湖北当陽楚墓からそれぞれ1点出土している。この時期にいたって、Abb型の発展は終わりをむかえる。

Abc型はおそらくAbb型をもとにAcc型の影響を受けて、口部から口縁としてのつくり（湾曲や屈曲などの形態）を省略して生まれたもので、Abb型とAaac型の特徴が折衷した新形式といえる。同型式は全部で43点出土している。①春秋中期には10点が知られる。7点が湖北襄陽と当陽の楚墓、3点が山西侯馬晋国墓、河南洛陽の周墓、山東峰城濫国墓で出土している。②春秋晩期には11点が知られる。そのうち5点が湖北襄陽と河南潢川の楚墓から、3点が山西南部の晋国墓から、3点が河南鄭州の鄭国墓、洛陽の周墓、山東滕州の薛国墓から出土している。③戦国早期には7点が知られ、いずれも山東臨淄の斉国墓から出土している。④戦国中期には11点が知られ、山東臨淄などの斉国墓から出土している。⑤戦国晩期には4点が知られ、3点は山東臨淄の斉国墓、1点は湖北雲夢の秦墓（春秋中期の器物が戦国晩期の秦墓に副葬された例）から出土している。春秋中期から晩期まで、Abc型の分布の重心は南方の楚国にあった。楚墓出土のAbc型が同時期のAbc型の出土総数に占める割合は半数を超えている。ただし、戦国早期から晩期になると、Abc型のほとんどは山東の斉国墓出土例に限られるようになる。楚国で盛んになったこの新形式が、戦国期には山東の斉国へと帰着してこの地に集中するようになるのである。

Abd型はAbb型をもとにあるいはAbc型Ⅱ式をもとに口部を受け口状に変更して生まれた型式である。同型式は全部で75点出土している。①春秋晩期では62点が出土している。そのうち49点は山東新泰などの斉国墓、5点が山東曲阜と泗水の魯国墓、1点が山東莒南の莒国墓、2点が河南淇県と山西長子の晋国墓、1点が河北涿鹿の燕国墓、1点が江蘇蘇州の呉墓から出土している。②戦国早期では7点が出土している。5点が山東鄒平などの斉国墓、1点が山東鄒城邾国墓、1点が河北遷西の燕国墓から出土している。③戦国晩期では1点が山東臨淄商王の斉国墓から出土している。以上のように、総数75点のうち海岱地区で64点が出土している。総数に占める割合は85%に達する。このうち57点は斉国墓から出土しており、全体の4分の3をしめる。この型式が斉国の地域的特色をもつものであることを示しており、周、晋、燕、呉などで出土した例はいずれもその影響を受けたものといえよう。

Ac型はAaaa型をもとに単耳が省略されて生まれた型式である。その数量は少ない。わずかに2点が知られ、いずれも春秋早期の例である。1点は山東曲阜の魯国で出土したもので、1点は日照趙家荘で採集されたものである。

Ba型はAaaa型をもとに圈足を付加して生まれた型式である。わずかに2点が知られ、1点は山東安丘の春秋初期莒国墓、1点は河南洛陽の春秋晩期周墓から出土している。

Bba型はBa型をもとに単耳を付加した型式である。Bba型は晋文化の特色となる一種の地方型であり、①最も古い例が山西聞喜の春秋初期晋国墓から出土している。ただし同時期に占めるこの型式の数量はわずかである。②春秋中期にいたってもなお、晋国、東方の海岱地区、中原地区の各

地で流行したのは Abb 型であった。③ところがその後、春秋晩期から戦国中期になると、Bba 型は晋文化の特色をもつ一種の地方型へと発展し、その分布は、山西、豫西、冀中など晋と三晋地区に集中した。また外に向かっては、周辺の河南洛陽の周王室や西方の秦国へと影響がおよんだ。春秋晩期から戦国中期の Bba 型は総数 59 点出土しており、そのうち 52 点が晋国と三晋の墓から出土している。全体の 88% に達する。また、6 点が河南洛陽の周墓から出土しており、全体の 10% にあたる。そのほか陝西鳳翔の春秋晩期秦国墓から 1 点が出土している。

Bbb 型については、現在のところわずかに 1 点が山東淄博の春秋中期齐国墓から出土している。これはおそらく、晋文化の特色である Bba 型の圈足付きの形態の影響を受けながら、春秋中期の齐国で流行した Abb 型Ⅳ式にもとづいて、その底部に鏤空の高圈足を付加して生まれたものである。圈足を取り去ると、その器蓋と腹部の特徴に Abb 型Ⅳ式との違いはない。

Bbc 型は晋文化の特色ともなった Bba 型から分化した一種の地方型である。その形態は、Bba 型にもとづきながら、低圈足を高圈足に変化させ、鳥獸鈕の蓋を付加したものである。総数 10 点が知られる同型式は、すべて河北易県などの春秋晩期燕国墓から出土している。したがって、Bbc 型は晋文化の Bba 型の影響を受けて生まれたもので、燕文化の特色となる地方型と考えることができる。

Ca 型は Aaaa 型をもとに、蹄足をくわえることで分化した型式である。Ca 型は数量が少なく、現在までに 3 点が知られるのみである。①春秋早期の 2 点のうち、1 点は山東滕州の薛国墓、1 点は湖北谷城の楚墓から出土している。②春秋中期の 1 点は、山東長清の齐国墓から出土している。総数 3 点のうち 2 点は山東海岱地区で出土している。

Cb 型は下位の 4 つの型に分けられた。Cba 型は最も早くに出現した型式で、Ca 型にもとづきながら、単耳を付加し、器蓋と腹部に乳釘を飾って分化したものである。Cba 型は全部で 12 点が知られる。①春秋早期の 1 点は山東青州で出土したもので、蓋はすでに失われていた。②春秋中期の 2 点は、山東長清齐墓で出土したもので、いずれも環鈕をもつ蓋の付いた Cbaa 型である。③春秋晩期には 9 点が知られる。8 点は山東新泰などの齐国墓から出土し、1 点は北京で入手された出土地不詳のものである。山東の齐国墓で出土したなかの 7 点はいずれも蹄足鈕の蓋が付く Cbab 型である。以上 12 点の Cba 型のうち、11 点は齐国で出土しており、齐国の特色となる一種の地方型といえよう。

春秋中期、晩期には、Cba 型から次々と Cbb、Cbc、Cbd 型が分化した。それぞれが特徴ある地理的分布を示している。

Cbb 型は、Cba 型にもとづきながら、乳釘の装飾をなくし、器蓋の鈕を棒状把手に変更して分化した型式である。鄭国の特色ともなる一種の地方型である。①春秋中期から戦国早期にかけての例が 15 点出土している。そのうちの 12 点は鄭国で出土しており、全体の 80% を占める。2 点は洛陽の周墓から出土している。そのうちの一つが著名な「少去鄭邦」の銘文をもつもので、洛陽に埋葬された哀成叔の銅である。その他の 1 点は山東臨淄の齐国故城で採集されたものである。

Cbc 型はわずかに 4 点が知られる。①春秋早期の 2 点は、北京延慶の山戎墓から出土している。②春秋中期、春秋晩期に各 1 点が知られ、いずれも河南洛陽の周墓から出土している。

Cbd 型は燕文化の特色となる一種の地方型である。おそらく燕文化の特色を示す Bbc 型の器蓋と腹部を継承しながら、齐文化の Cba 型ないし鄭国の Cbb 型蹄足の影響を受けて、Bbc 型の高圈足を高蹄足に変更して生まれた型式である。Cbd 型は 6 点が知られ、いずれも燕国で出土している。①春秋晩期の 4 点は、河北易県などの燕国墓から出土している。②戦国早期の 2 点は、河北三河と

北京通州の燕国墓から出土している。

D 型は、現在のところわずかに 1 点のみが知られる。山東臨淄の齊国故城で出土している。その器蓋と腹部の形態は Abd 型 I 式に近いが、底部に人形足を付加したものである。工人あるいは作器にかかわった人物の特別な趣向や必要性から生まれた一回性のものであろう。

(四) 結語

以上のように型式分類、分期、年代考定、地理的分布、文化的属性の各側面の検討を通じて、本稿は青銅鉶の系譜問題と時空間の動態について、そのおおよその全体像を示すことができた。同時に春秋戦国時代の諸侯国における青銅鉶の使用状況と、その背後にある諸国間、諸地域間の交流と相互関係のあり方についても指摘できるところがあった。おもな論点について以下にまとめておく。

1) 青銅鉶は沂沭河—淄河流域にあった莒国、齊国を中心とする海岱地区において最も早くに出現し、同地区において最も長期にわたって継続した。また青銅鉶の出土数量も、海岱地区が最も多く、形態の変化も豊富であった。山東の海岱地区は青銅鉶誕生の地であり、また最も隆盛した地域であった。

2) 青銅鉶は、おそくとも春秋初期（前 770～680 年）において、すでに淄河流域の齊国に広がっていた。一方で莒国、齊国など海岱地区から、西に向かって河汾地区の晋国と芮国に広まり、南方に向かって漢淮地区の曾国にも広まっていた。ただし、青銅鉶が海岱地区で盛行するのはつぎの春秋早期のことである。またその海岱地区から西方の中原河洛地区、山西河汾地区、南方の江淮地区、北方の京冀地区、西北の陝甘地区へとより本格的に拡散するのも春秋早期（前 680～600 年）のことであった。このように、はじめは点と線のように細々とつながる分布であったものが、春秋早期になって急に爆発的に面的な分布へと変貌したことは（図 2、3 から図 4）、前 680～643 年における齊桓公による覇業の動きと関係していると考えられる。海岱地区にあった齊桓公が覇業を確立する過程で、海岱地区の莒国、齊国に由来する青銅鉶を、中原地区河洛地区、河汾地区、江淮地区、京冀地区へと本格的に押し広めていったと考えられるのである。『左伝』僖公七年に「夫諸侯之会、其德刑礼儀、無国不記」とあるが、青銅礼器である鉶の拡散の過程と、春秋早期齊桓公のいわゆる覇業には重なりあう側面があったと考えられる。

春秋早期、海岱地区に由来する青銅鉶が中原河洛地区と河汾地区の貴族墓における副葬青銅礼器の標準的な一器種として採用された結果、西周期以来の伝統的な青銅礼器の組合せは、あらたに東方由来の要素をくわえた「鼎、敦（簋）、壺（罍）、鉶、盤、匱」という組合せに変化したのである。この一時期の重要な文化的な変化について、従来の研究では注意されてこなかった。誕生した新しい青銅礼器の組合せ形式は、主として齊、晋、周、鄭、魯、燕、それに齊や晋と華北における聯盟下にあった諸国で流行した。一方、西方の秦や、南方の楚、呉、越などの墓でも稀少ながら青銅鉶が副葬された例があるものの、その数量は少ない。これらの諸国では、この新しい青銅器の組合せが全面的に受け入れられることにはなっていない。またこの青銅器から受けた影響も大きなものではなかった。京冀地区と甘陝地区の戎狄墓においても基本的には上記の青銅器礼器の組合せ形式は見られない。戎狄の墓から出土した例のある青銅鉶は、彼等の勢力が南下してそこで収奪した器物であった可能性がある。

3) 春秋初期と春秋早期に各地で広く流行した A 型の平底鉶、とりわけ春秋早期の Abb 型の分

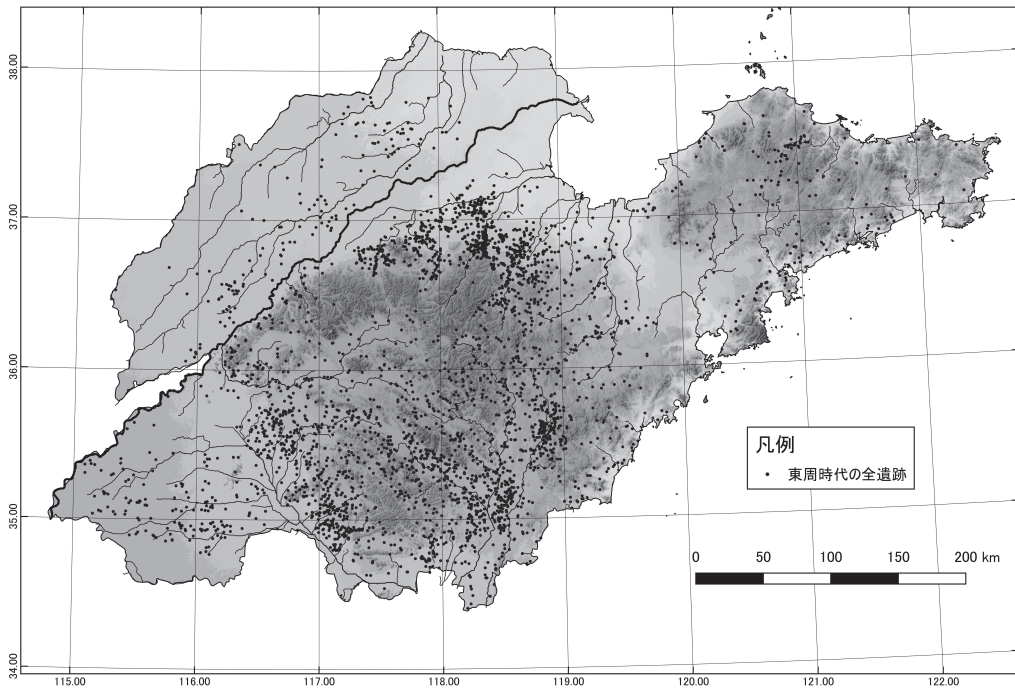


図 10 春秋戦国時代の遺跡分布図

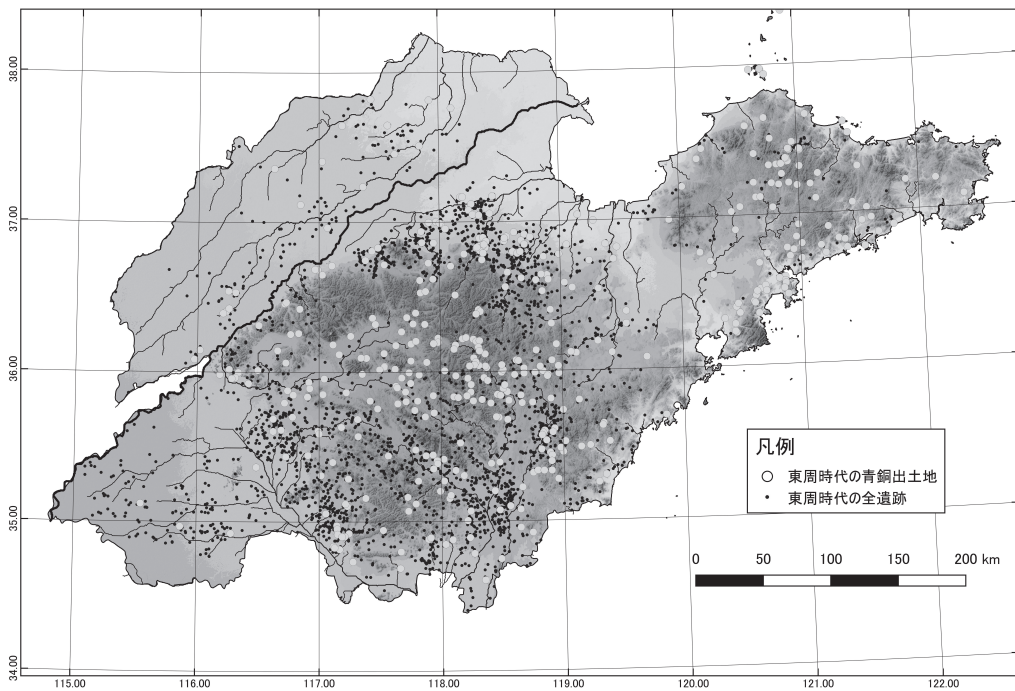


図 11 春秋戦国時代の青銅器出土地

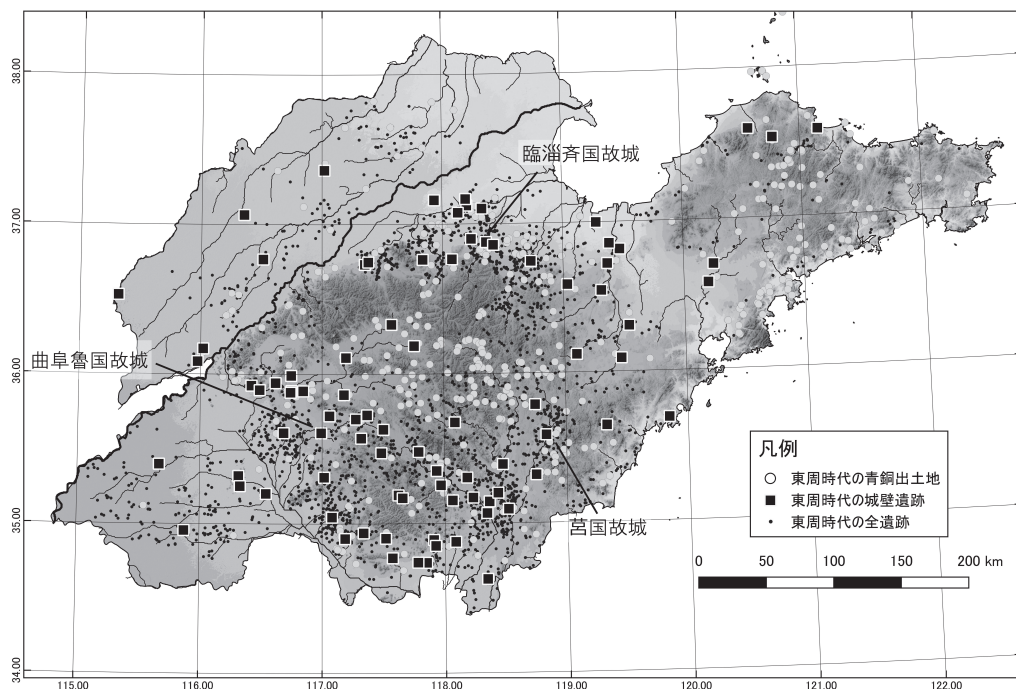


図 12 春秋戦国時代の城壁遺跡

布は最も広範囲におよび、同時に強い「統一性」を示している。しかし春秋中期，晩期になると A 型平底鉶の数量は減少して分布範囲も狭まり，東方の海岱地区に回帰するように収束する傾向がみられる。また，各地域間の差異性も顕在化ようになる。

春秋中期，晩期の海岱地区では，齊国，莒国などにおいて依然として A 型平底鉶が流行の中心であったが，それについて Cba 型の乳釘紋蹄足鉶が流行した。B 型圈足鉶は春秋初期すでに海岱地区で出現していたが，その数量は少ない。Abd 型，Cba 型，Abc 型Ⅲ，Ⅳ式は齊国の特色を濃厚に示した地方型というべきであろう。

その他の地区では，晋と三晋地区において Bba 型圈足鉶が流行し，その影響は周王室の地区にもおよんでいた。鄭国では Cbb 型蹄足鉶が流行し，燕国では Bbc 型圈足鉶と Cdb 型高蹄足鉶が流行した。楚国の墓では青銅鉶自体が十分に流行したとはいえないが，春秋中期の楚国では，早期タイプの青銅鉶（口縁部のつくりがなく，深腹，単耳）を模倣したような，ある種の「復古」型（ないしは「先祖返り」型）の青銅鉶 Aaac 型が出現している。また，その Aaac 型とその同時期に流行した Abb 型Ⅳ式の両型式から影響を受けて，両者の特徴を兼ねそなえた Abc 型が生まれている。Aac 型は春秋中期にはおもに楚国に分布しているが，その影響は楚国から北に向かって周，晋国および東方の海岱地区にもおよんだ。Aac 型は，最終的には回帰するように戦国期の齊国の特色ある一種の地方型となる。

4) 青銅鉶は西周晩期に出現し，戦国晩期から秦漢時期には基本的に消失した。前後約 670 年余

りにわたって継続したことになる。そのなかで、春秋早期から春秋晩期が発展の最高潮にあたり、出土例は最も多く、分布の範囲は最も広がった。しかし、青銅甬の主要な分布域は、終始東部の海岱地区と中原地区および北方地区に集中した。西方の秦国、南方の楚国に対しては顕著な影響は生まれていなかった。このことが、青銅甬が秦漢時期にはいると急速に消失してしまうことの背景にあったとも考えられる。

おわりに一つの参考材料として山東省における春秋戦国時代の青銅器出土地点の分布と、河川流域の表現を重ねた地形図を作成してみた¹¹¹⁾。上記1)～4)のまとめにあるように、青銅甬という青銅礼器の一器種の消長に限定していえば、海岱地区-河洛地区-河汾地区という、主として山東と黄河中流域および太行山脈の東西両側一帯との地域間関係が文化史の関係性の主要な流れとなっていた。それに対して、山東と南方の淮河下流域あるいは長江中下流域との関係性は、青銅甬については比較的稀薄なものないし副次的なものであった。付表2を参照すれば、斉国と莒国といった海岱地区の諸侯国を発信源として、晋国と三晋地区、および周と鄭国の中原地区との密接な相互関係が明確にうかがわれる。春秋時代の青銅礼器の地理的分布が、諸国間の「国際関係」を背景として変動したものであることがうかがわれるのである。

ところで考古学的にとらえられる山東地区と周辺諸地域との文化的関係性について、本稿の視点とは全く別に、たとえば土器に着目して、新石器時代にさかのぼって観察するならば、山東とその南方あるいは西南方に隣接する諸地域との関係は、ときには大汶口文化のように現在の省境を超えて連続する様相も示し、けっして稀薄なものではなかったはずである。新石器時代のある時期には、むしろ山東と黄河中流域や華北諸地域との関係性が稀薄なこともあった。さらに、二里頭文化期の夏王朝から殷王朝にいたる初期王朝時代には、山東地区と黄河中流域の中原王朝が、考古学文化の空間分布において東西に相対峙するような状況もあった。新石器時代後期から夏、殷時代をへて西周時代、そして春秋戦国時代へと移りかわる間の、さまざまな考古学文化の諸要素の動きに反映される地域間関係の諸相は、中国大陆における初期王朝の形成過程からその成熟期にいたる間の広域を巻き込んだ地域間関係の長期的変動を物語っていると考えることができる。本稿で試みた春秋戦国時代の青銅礼器の一器種についての考察は、そうした歴史的時空間の一端を垣間見るものであったといえよう。本稿執筆者らは、今後の研究課題として、山東地区とその周辺諸地域を対象とした新石器時代から初期王朝時代をへて秦漢帝国の成立にいたる間の地域社会と地域間関係の長期的変動について、地理考古学的な視点からアプローチすることを考えており、さまざまな可能性を探ってみたい。

本研究は、JSPS 科研費 JP15K02993 の助成、2018 年度南山大学パツヘ研究奨励金 I-A-2 の助成、および公益財団法人幸財団の助成（平成 28 年度）による研究成果の一部である。

付表1 研究者別の青銅鉶の分類

林巳奈夫	一型 深腹	一 A 型 深腹, 環鈕蓋	
	二型 浅腹	二 A 型 三足	
	三型 深腹, 長三足	三 A 型 深腹, 圈足	
馬承源	平底	一 短め楕円体, 口唇部をつくる	
		二 長め楕円体, 口唇部をつくる	
		三 長め楕円体, 口唇部をつくらない	
	圈足	四 短め楕円体, 円足 (圈足のことか)	
		五 長め楕円体, 圈足	
朱鳳瀚	1 类 無蹄足鉶	A 型 口部内傾	Aa 型 腹壁円曲, 鼓腹, 最大径腹中部
			Ab 型 狭い折肩部, 最大径は肩底と腹部の交接部, 腹壁下方に内収
			Ac 型 腹部最大径上腹部, 腹壁下方に緩やかにまるく内収, 曲率やや大きい
			Ad 型 腹部最大径上腹部口縁近く, 腹壁下方に斜直に内収, 曲率はやや小さい
		B 型 口部外傾。腹部長辺両側に双環耳	
	2 类 蹄足鉶	A 型 平底に近い	
斉耐心	甲类 平底	A 型 単耳	Aa 型 鼓腹, 束頸, 広口
			Ab 型 鼓腹, 広口, 束頸, 腹部短辺両側に小鈕
		B 型 双耳	Ba 型 広口, 束頸, 鼓腹, 腹部短辺両側に小鈕
			Bb 型 鼓腹, 広口, 束頸
			Bc 型 口部内傾, 腹部下方に斜収, 最大径は器身中部やや上
			Bd 型 直口, 無蓋, 平蓋ないし蓋頂部隆起
		C 型 口部外傾, 腹部弧壁, 双耳は口縁部近く, 盆形に近い	
	乙类 底部に四足	A 型 鼓腹, 丸底	
		B 型 広口, 腹部弧壁, 腹部下方にやや内収	
	丙类 圈足	A 型 双耳	Aa 型 広口, 束頸, 鼓腹
			Ab 型 広口, 口部屈折, 鼓腹
			Ac 型 広口, 束頸, 垂腹
		B 型 単耳	
呉偉華	A 型 腹部横断面楕円形ないし円形	Aa 型 器体扁平幅広, 鼓腹やや斜垂, 最大径腹中部やや下	
		Ab 型 腹壁円曲, 最大径腹中部	
		Ac 型 最大径上腹部	
	B 型 腹部横断面隅円方形, 口部内傾, 深腹, 平底, 腹部両側に対称に双環耳		

畢経緯	甲类 無足，平底	A 型 単耳，広口，鼓腹，腹部片側に半環耳	
		B 型 双耳	Ba 型 環耳
			Bb 型 獣形環耳，首尾を備えた獣耳
			Bc 型 受け口状口縁，幅の狭い器体
		C 型 双耳，深腹	
		D 型 単耳，丸底	
	乙类 圈足	A 型 束頸，圈足，上腹部に一对の環耳	
		B 型 鏤空圈足	
		C 型 假圈足，平底	
		D 型 単耳，圈足	
		E 型 圈足	
	丙类 獣足	A 型 圈状把手付き蓋	
		B 型 蹄足，環鈕蓋（図示された例は蹄足鈕蓋）	
		C 型 七環耳，三蹄足	
		D 型 環耳蓋，四蹄足	

付表2 省別・遺跡別の青銅鉶出土表（型式欄のアラビア数字は出土点数）

出土地点と番号	時期	型式・数量	高さ cm	口径 cm	底部（腹）径 cm	資料出典
山東省						
莒県西大莊 1996M1:14	西周晚期	Aaaa I 1	6.4	7.9 × 8.8	6.2 × 6.7	『考古』1999 年 7 期
莒南柳溝盧范大莊 1982M	西周晚期	Aaaa I 1				莒南博物館陳列
安丘東古廟 1994M:13	春秋初期	Ba I 1	8.3	9.3		『文物』2012 年 7 期
臨朐泉頭 1977M 甲:10	春秋初期	Aaaa II 1	9	9 × 10		『文物』1983 年 12 期
臨沂沙旦子 1963M	春秋初期	Aaaa II 1				臨沂博物館陳列
臨淄東古城 1984M1:9	春秋初期	Aab I 1	8.5	8 × 10.2		『考古』1988 年 1 期
沂水黃山鋪東河北 1982M	春秋初期	Aaaa II 1	8	10 × 13.5	4 × 6	『考古』1986 年 8 期
沂水黃山鋪東河北 1990M5:7	春秋初期	Aab I 1	7.5	8 × 10	6 × 8	『考古』1995 年 4 期
淄博南陽 1982M	春秋初期	Aaaa II 1	9	8.3 × 10.5	6.4 × 7.4	『考古』1986 年 4 期
莒南嶺泉城后探	春秋早期	Aab II 1				莒南博物館陳列
長島大竹山島 1965M	春秋早期	Abb III 1	7.8	12.2 × 15.7		『文物』1992 年 2 期
海陽嘴子前 1978M1:62	春秋早期	Abb IV 1	11.8		腹 13.4 × 19.2	『海陽嘴子前』
海陽嘴子前 1985M2:20	春秋早期	Aab II 1	7.6	9.1 × 11.3		
海陽嘴子前 1994M4:132	春秋早期	Aba II 1	10.2			
海陽嘴子前 2000M6:4	春秋早期	Abb III 1	6.7	14.6		
臨朐岳泉 1980 採:2	春秋早期	Aab II 1	8.7			『考古』1993 年 9 期
臨淄劉家新村 2011M28:31	春秋早期	Aaaa IV 1	6.1	11.2	6.4	『考古』2013 年 5 期
蓬萊柳格莊 1976M4:55	春秋早期	Aaaa III 1	6	7.4 × 9.8	5.8 × 6.5	『考古』1990 年 9 期
蓬萊柳格莊 1976M4:7	春秋早期	Aaaa III 1	7.5	8 × 12		
栖霞呂家埠 1982M1:11	春秋早期	Abb II 1	7	8 × 14	腹 12 × 16	『考古』1988 年 9 期
栖霞呂家埠 1983M2:2	春秋早期	Aaaa III 1	7.5	9.5	腹 12	
栖霞杏家莊 1976M3:2	春秋早期	Abb II 1	7	8 × 14	底 5, 腹 12 × 18	『考古』1992 年 1 期
曲阜魯故城 1977M201:7	春秋早期	Abb II 1				『曲阜魯國故城』
曲阜魯故城 1977M202:4	春秋早期	Abb II 1	7.2	12.2 × 18.2		
曲阜魯故城 1977M203:8	春秋早期	Aba II 1	7	9.7 × 13.5		
曲阜魯故城 1977M305:1	春秋早期	Ac1	6.1	7.3 × 9.2		
日照趙家莊採:1	春秋早期	Ac1	5.1	7.9 × 9		『文物』1990 年 6 期
日照趙家莊採:2	春秋早期	Abb II 1	5.5	? × 11.6		
泰安王士店 1963 採:1	春秋早期	Abb III 1	8.4	11.3 × 14.5	7.6 × 9	『考古与文物』2008 年 5 期
泰安王士店 1963 採:3	春秋早期	Abb III 1	6.1	9.7 × 12.9		
郕城大埠二村 2002M1:4	春秋早期	Abb IV 1	11.8	12 × 17.6	? × 8.6	『海岱考古（四）』
滕州薛故城尤樓 1978M1:1	春秋早期	Aba I 1	11.8	? × 12		『考古学报』1991 年 4 期
五蓮留村 1980 採	春秋早期	Aaaa III 1	11	18		『考古』1993 年 9 期
五蓮丹土 1981 採	春秋早期	Aab II 1	8.9			『五蓮文物志』
沂水劉家店子 1978M1:99	春秋早期	Aaaa III 1	13.5	15.4 × 18.8		『文物』1984 年 9 期

沂水劉家店子 1978M1: ?	春秋早期	Aaaa Ⅲ 1				
棗莊薛城中北常 1987M	春秋早期	Abb Ⅱ 1	7.5	17.5 × 18.2		『考古與文物』2002 增刊
滕州莊里西探	春秋早期	Abb Ⅲ 1				『棗莊文物博覽』
鄒平大省村 1979M1	春秋早期	Abb Ⅲ 2	9 月 10 日	16.5-16.8	腹 17-18.9	『考古』1986 年 7 期
滕州薛故城出土	春秋早期	Ca I 1				山東省文物考古所陳列
青州楊姑橋 1972SQY:5	春秋早期	Cbb I 1	12	13.5 × 25.2		『海岱考古 (五)』
長清仙人台 1995M5:75 等	春秋中期	Cbaa Ⅱ 2	14.5	13.5 × 18.6		『文物』1998 年 9 期
長清仙人台 1995M5:84	春秋中期	Ca Ⅱ 1	6.5	6.6 × 8.6		
臨朐楊善 1963M	春秋中期	1				『文物』1972 年 5 期
臨朐岳泉 1980 探 :3	春秋中期	Abb Ⅳ 1	7.5			『考古』1993 年 9 期
寿光達字留 1980 探	春秋中期	Abb Ⅳ 1	10.5			
滕州東康留 1999M51:8	春秋中期	Abb Ⅳ 1	6.1	12.3 × 16.4		『文物』2013 年 4 期
滕州薛故城尤樓 1978M2:79	春秋中期	Abb Ⅲ 1	8.8	12.5 × 15.5		『考古學』1991 年 4 期
滕州薛故城尤樓 1978M4:4	春秋中期	1				
峰城徐樓 2009M1:11	春秋中期	Abc I 1	8.4	14.6 × 16.8		『文物』2014 年 1 期
峰城徐樓 2009M2:21	春秋中期	Aaaa V 1	9.6	14.3 × 19.2	腹 15.4 × 20	
淄博磁村 1977M01:3	春秋中期	Abb Ⅳ 1	11		腹 15.4 × 20	『考古』1991 年 6 期
淄博磁村 1977M02:3	春秋中期	Bbb1	9.2		腹 9.7 × 12.6	
淄博磁村 1977M1:4	春秋中期	Abb Ⅳ 1	7		腹 12.2 × 16.6	
鄒平大省村 1979M7	春秋中期	Abb Ⅳ 1	9 月 10 日	16.5-16.8	腹 17-18.9	『考古』1986 年 7 期
沂水紀王崗 2012M1:45	春秋中期	Aaaa V 1	10.9	11 × 15.3	5.9 × 8.3	『沂水紀王崗春秋墓出土文物集萃』
沂水紀王崗 2012M1:47	春秋中期	Aaaa V 1	11.6	11.1 × 16	6.5 × 9.7	
沂水紀王崗 2012M1:151	春秋中期	Abb Ⅳ 1	8.1	12.1 × 17.5	6.3 × 10.1	
肥城王莊東焦 1993M	春秋晚期	Abd I 1	12.4	8.8 × 14.6		『考古』2003 年 6 期
莒南大店老龍腰 1975M1:19	春秋晚期	Abd Ⅱ 1				『考古學報』1978 年 3 期
莒南大店花園村 1975M2:13	春秋晚期	Abb V 2	13.2	13.5 × 17	腹 15 × 18	
萊蕪戴魚池 1984M:8	春秋晚期	Abd I 1	8.6	11 × 15		『文物』1989 年 2 期
臨沂鳳凰嶺 1982M:K35	春秋晚期	Abb V 1	9	18.8 × 24.5		『臨沂鳳凰嶺東周墓』
臨沂鳳凰嶺 1982M: 殉 4 足下 4	春秋晚期	Abb V 1	7.8	12.4 × 17.08		
曲阜魯故城 1977M103:1	春秋晚期	Abd I 1	8.4	10.8 × 12.5		『曲阜魯國故城』
曲阜魯故城 1977M115:6	春秋晚期	Abd I 1	8.8	10.5 × 11.2		
曲阜魯故城 1977M116:1	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	16.3	15 × 17		
曲阜魯故城 1977M116: ?	春秋晚期	Abd Ⅱ 1				
泗水尹家城 2000M5:9	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	8.4	12.8 × 16		『海岱考古 (二)』
泰安大汶口 1981 探	春秋晚期	Abd I 1	8	12.4 × 14.6	6.6 × 7.7	『考古』1987 年 7 期
泰安黃花崗 1956 探	春秋晚期	Abd I 2	6.2	12 × 13.5		『考古與文物』2000 年 4 期
泰安王士店 1963 探 :2	春秋晚期	Abd I 1	7.7	11.8 × 14	6.2 × 7.5	『考古與文物』2008 年 5 期
滕州東康留 1999M124:3	春秋晚期	Abd I 1	7.7	12 × 13.6		『文物』2013 年 4 期
滕州薛故城尤樓 1978M6:2	春秋晚期	Abc Ⅱ 1	14	13 × 17		『考古學報』1991 年 4 期
滕州莊里西 1990M8:4	春秋晚期	Abd I 1	7.8	13.7		『文物』2002 年 6 期
滕州莊里西 1990M8:5	春秋晚期	Abd I 1	7.2	14.2		
新泰郭家泉 1982M9:13	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	8.2	? × 15.2		『考古學報』1989 年 4 期
新泰周家莊 2003M2:61	春秋晚期	Abd I 1	7.8	11.6 × 13.6		『新泰周家莊東周墓』
新泰周家莊 2003M2:62	春秋晚期	Abd I 1	7.7	11.9 × 13.2		
新泰周家莊 2003M3:5	春秋晚期	Abd I 1	7	13.9 × 11.9	8.1 × 6.5	
新泰周家莊 2003M3:34	春秋晚期	Abd I 1	7.3	13.2 × 11.4	7.6 × 6	
新泰周家莊 2003M5:28, 36	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	16.4	17.6 × 14	11.4 × 8.6	
新泰周家莊 2003M80:5	春秋晚期	Abd I 1	7.3	11.6 × 13.7	6 × 7.2	
新泰周家莊 2003M80:8	春秋晚期	Abd I 1				
新泰周家莊 2003M11:12	春秋晚期	Abd I 1	8	11.4 × 14	6.6 × 7.8	
新泰周家莊 2003M11:13	春秋晚期	Abd I 1				
新泰周家莊 2003M25:5	春秋晚期	Abd I 1	6.8	12.4 × 12.6	6.4 × 7.4	
新泰周家莊 2003M37:10	春秋晚期	Abd I 1	8.2	11.7 × 11.8	7.2 × 8.4	
新泰周家莊 2003M49:5	春秋晚期	Abd I 1	7.8	14	7.6	
新泰周家莊 2003M50:20	春秋晚期	Abd I 1	8.3	12.8 × 13.6	6.2 × 7.5	
新泰周家莊 2003M58:2	春秋晚期	Abd I 1	7.8	12.4 × 14.3	6.5 × 7.6	
新泰周家莊 2003M58:3	春秋晚期	Abd I 1	8.1	12.5 × 14.4	6.9 × 8	
新泰周家莊 2003M10:3	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	7.5	12.6 × 14	6.8 × 10	
新泰周家莊 2003M10:4	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	8	12.4 × 14.5	6.4 × 8	
新泰周家莊 2003M13:34	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	7.8	11.8 × 13.6	6 × 7.3	
新泰周家莊 2003M13:35	春秋晚期	Abd Ⅱ 1				
新泰周家莊 2003M18:14	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	7.9	11.7 × 15.5	6.6 × 8.1	
新泰周家莊 2003M18:7, 8	春秋晚期	Cba1				
新泰周家莊 2003M22:13	春秋晚期	Cba Ⅲ 1	8.4	12.8 × 15.6		
新泰周家莊 2003M22:14	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	7.8	11.2 × 13.7	6 × 6.9	
新泰周家莊 2003M28:2	春秋晚期	Abd Ⅱ 1	7.5	11.8 × 13.6	6.7 × 8.6	

新泰周家莊 2003M28:3	春秋晚期	Abd II 1	7.6	12 × 14	6.4 × 8.1	
新泰周家莊 2003M32:4, 3	春秋晚期	Abd II 1	16	17.6	11.6	
新泰周家莊 2003M35:49	春秋晚期	Abd II 1	8	11.5 × 14		
新泰周家莊 2003M35:54	春秋晚期	Abd II 1				
新泰周家莊 2003M36:1, 2	春秋晚期	Abd II 1	12.9	12 × 14.4	6.9 × 8.4	
新泰周家莊 2003M36:16, 15	春秋晚期	Abd II 1	13.4	11.8 × 14.4	6.9 × 8.4	
新泰周家莊 2003M38:39, 38	春秋晚期	Cbab III 1	12.6	13.6 × 16.8		
新泰周家莊 2003M48:21, 22	春秋晚期	Cbab III 1	12	12.9 × 15.9		
新泰周家莊 2003M48:26	春秋晚期	Abd II 1	7	11.2 × 14.5	6.3 × 7.7	
新泰周家莊 2003M57:4	春秋晚期	Abd II 1	7.2	12 × 13.6	6.2 × 8.3	
新泰周家莊 2003M59:18	春秋晚期	Abd II 1	7.8	12 × 14.2	6 × 7.5	
新泰周家莊 2003M59:20	春秋晚期	Abb IV 1	7.2	13.4 × 17.2		
新泰周家莊 2003M61:8	春秋晚期	Abd II 1	8.4	12.3 × 14.5	7.2 × 8.8	
新泰周家莊 2003M61:9	春秋晚期	Abd II 1	8.2	12 × 14.9	7.2 × 8.7	
新泰周家莊 2003M62:5	春秋晚期	Abd II 1	7.8	11.8 × 14.1	6.6 × 7.8	
新泰周家莊 2003M67:16	春秋晚期	Abd II 1	8.1	12.1 × 14.4	7.4 × 9.1	
新泰周家莊 2003M67:12, 11	春秋晚期	Cbab III 1	12.5	14		
新泰周家莊 2003M68:24	春秋晚期	Abd II 1	7.7	12 × 13.6	6.6 × 8.1	
新泰周家莊 2003M68:21	春秋晚期	Abd II 1				
新泰周家莊 2003M69:26	春秋晚期	Abd II 1	7.9	11.9 × 14.1	6.9 × 8.1	
新泰周家莊 2003M70:8	春秋晚期	Abd II 1	8.4	12 × 14.9	8 × 9.4	
新泰周家莊 2003M72:11	春秋晚期	Abd II 1	8.1	11.5 × 13.8	6.4 × 8.2	
新泰周家莊 2003M72:12	春秋晚期	Abd II 1	8	12.3 × 13.9	6.3 × 8.4	
新泰周家莊 2003M73:20	春秋晚期	Abd II 1	8	11.7 × 14.2	6.5 × 7.8	
陽谷景陽崗 1979M	春秋晚期	Cbab III 1	12	13.2 × 16.2		『考古』1988年1期
沂水清葛峪嘩村 1983M	春秋晚期	Cbab III 1	13.5	14 × 17		『文物』1983年12期
臨淄高陽探	春秋晚期	Cbb II 1	10	15.1 × 15.8		『山東臨淄文物精粹』
臨淄磁村探	春秋晚期	Cbab III 1	17.3	21		
臨淄河崖頭 1964 探	春秋晚期	D1	13	11 × 11.6		
鄒城銅山 1980 探	戰國早期	Abd II 1				『考古學集刊 (3)』
長島王溝 1973M1	戰國早期	Abd II 1	12.5			『考古學報』1993年1期
長島王溝 1973M2	戰國早期	I				
濟南左家窪 1985M1:10	戰國早期	Abb IV 1	10.85	13.6 × 18		『考古』1995年3期
萊蕪西上崗 1973 探	戰國早期	Abd II 1	10	14.6 × 18		『文物』1990年11期
嶗山夏莊安樂 1974M	戰國早期	Abd II 1		16 × 19.5	8.5 × 10	『文物資料叢刊 (5)』
臨淄東夏莊 1984M6P13 × 22:1	戰國早期	Abc III 1	6.2	9 × 11.6		『臨淄齊墓 (一)』
臨淄相家莊 1996M6 × :5	戰國早期	Abc III 1	14.4	15.8 × 20	12 × 15.5	
臨淄相家莊 1996M6 × :13	戰國早期	Abc III 1	10.3	10.2 × 12	7.6 × 9.1	
臨淄相家莊 1996M6:3	戰國早期	Abc III 1				
臨淄相家莊 1996M3P3:8	戰國早期	Abc III 1	14	15 × 20	12 × 15	
臨淄東申橋 1966 探:大	戰國早期	Abc III 1	14	16.1 × 20.3		『考古』1985年4期
臨淄東申橋 1966 探:小	戰國早期	Abc III 1	12.5	12.6 × 15		
平度東岳石 1960M16:35B	戰國早期	Abd II 1				『考古』1962年10期
臨淄磁村 1977M03:3	戰國早期	I				『考古』1991年6期
鄒平大省村 1979M3:1	戰國早期	Abd II 1	16		腹 18.7	『考古』1986年7期
長島王溝 1973M10:28	戰國中期	Abc IV 1	12.5			『考古學報』1993年1期
長島王溝探	戰國中期	Abc IV 1	9.5			
長清崗辛 1975M:7	戰國中期	Abd III 1	16.5	19.5 × 22		『考古』1980年4期
臨淄東夏莊 1985M5:105	戰國中期	Abc IV 1	11.6	14 × 16.8	12 × 13.6	『臨淄齊墓 (一)』
臨淄東夏莊 1985M5:97	戰國中期	Abc IV 1				
臨淄辛店 2010M2:20	戰國中期	Abc IV 1	15.6	15.6 × 20.4		『考古』2013年1期
陽信城閭西北 1988M:28	戰國中期	Abc IV 1	9.8	14.7 × 16		『考古』1990年3期
章丘女郎山 1990M1:37 等	戰國中期	Abc IV 2	10	16		『濟青高級公路 (章丘工段) 考古發掘報告集』
章丘女郎山 1990M1:38 等	戰國中期	Abc IV 2	13.2	17.2		
臨淄城北 2002M3	戰國中期	Abd III 1	9.35	14.4		『臨淄新出土文物集粹』
臨淄國家村 2003M3	戰國中期	Abc IV 1	15	15.6 × ?		
臨淄中軒電廠 2001M1	戰國晚期	Abc IV 1	12.8	15.6 × ?		
臨淄商王 1992M1:93-2	戰國晚期～秦	Abc IV 1	6.2	5.4 × 6.8	底 4 × 5.2, 腹 6.4 × 7.7	『臨淄商王墓地』
臨淄商王 1992M1:113		Abd IV 1	8.7	7.7 × 9.5	4.8 × 5.9	
臨淄趙家徐姚 2001M1:2	戰國晚期	Abc IV 1	12.8	15.6 × 20		『考古』2005年1期
山西省						
聞喜上郭 1974M373:12	春秋初期	Bba I 1	3.2	5.4		『三晉考古 (一)』
聞喜上郭 1974M48:12	春秋初期	Aaaa II 1	5.5	6	4.1	
聞喜上郭 1974M57:18	春秋初期	Aaaa II 1	7.1	7.8	5.1	

聞喜上郭 1975M1:31	春秋初期	Aaaa II 1	4.1	6.4		
聞喜上郭 1976M4:2	春秋早期	Abb II 1	8.1		腹 11 × 13.7	
聞喜上郭 1976M6:4	春秋早期	Aba III 1	7.2		腹 10.4 × 14.4	
聞喜上郭 1989M3:1	春秋早期	Aba III 1	6.7		腹 10 × 13.5	
聞喜上郭 1989M4:3	春秋早期	Abb III 1	7.1		腹 11.6 × 14.6	
新絳宋村 1982 採	春秋早期	Abb III 1	3.5	5.5 × 7.7	3.3	『晋都新田』
侯馬上馬 1961M11	春秋中期	1	7		腹 11.5 × 15.5	『考古』1963 年 5 期
侯馬上馬 1961M13:30	春秋中期	Abb IV 1	6.5	13 × 16.7		
侯馬上馬 1961M13:31	春秋中期	Abb IV 1				
侯馬上馬 1973M1013:5	春秋中期	Aaaa V 1	5.1	10.2 × 15		『上馬墓地』
侯馬上馬 1973M1015:12	春秋中期	Abb IV 1	7.1	11.1 × 15.1		
侯馬上馬 1978M1006:3	春秋中期	Abb IV 1	7.8	11.8 × 16.9		
侯馬上馬 1978M1010:11	春秋中期	Abb IV 1	7.4	10.4 × 14.6		
侯馬上馬 1978M1027:9	春秋中期	Abb IV 1	11.2	7.7 × 9.2		
侯馬上馬 1978M1027:10	春秋中期	Abc I 1	6.1	14.2 × 16.4		
侯馬上馬 1978M2148:3	春秋中期	Abb IV 1	6.2	9.7 × 16		
侯馬上馬 1981M4094	春秋中期	1				
臨猗程村 1987M0003:16	春秋中期	Abb III 1	7.3	10.8 × 14.5	6.8 × 9.5	『臨猗程村墓地』
臨猗程村 1987M0020:6	春秋中期	Abb IV 1	6.6	11.8 × 14	6.2 × 8.5	
臨猗程村 1987M1059:11	春秋中期	Abb IV 1				
臨猗程村 1987M1064:7	春秋中期	Abb III 1	5.9	11.3 × 13.5	5 × 8	
臨猗程村 1987M1072:70	春秋中期	Abb IV 1	8.7			
聞喜上郭 1976M17:5	春秋中期	Abb III 1			腹 13.2 × 16.7	『三晋考古 (一)』
聞喜上郭 1989M5:10	春秋中期	Abb IV 1	7		腹 14 × 18.4	
長治分水嶺 1966M232	春秋晚期	1				『長治分水嶺東周墓地』
長治分水嶺 1972M269:62	春秋晚期	Abb III 1	7.5	10 × 15.5		
長治分水嶺 1972M270:17	春秋晚期	Abc II 1	7	15 × 21		
長子羊圈溝 1973M1:6	春秋晚期	Abd I 1	7.6			『考古學報』1984 年 4 期
長子羊圈溝 1973M2:6	春秋晚期	Bba IV 1	7	10.6 × ?		
侯馬東高 1994 採 :61	春秋晚期	Bba IV 1	6.4	11.6 × 13.4		『晋都新田』
侯馬牛村南 1960M27:7	春秋晚期	Bba IV 1	殘 5.4	11		
侯馬牛村南 1960M6:4	春秋晚期	Abc II 1	6	11.2 × 13.4		
侯馬牛村南 1961M342:4	春秋晚期	Abb V 1	8.7	10.3 × 12.2		
侯馬上馬 1959M	春秋晚期	Bba IV 1	10	16 × 18		『考古』1959 年 7 期
侯馬上馬 1963M15:15	春秋晚期	Bba IV 1	7.5	11.2 × 13.4		『上馬墓地』
侯馬上馬 1963M15:19	春秋晚期	Bba IV 1	6.2	12 × 14		
侯馬上馬 1973M1002:5	春秋晚期	Bba IV 1	6.8	11.4 × 12.7		
侯馬上馬 1973M1004:14	春秋晚期	Bba IV 1	8.5	14.7 × 17.8		
侯馬上馬 1973M1004:25	春秋晚期	Bba IV 1	8.5	14.7 × 17.8		
侯馬上馬 1973M2008:27	春秋晚期	Bba IV 1	9.2	13.2 × 15.8		
侯馬上馬 1973M4006:7	春秋晚期	Bba IV 1	8.2	13.5 × 15.9		
侯馬上馬 1978M1026:7	春秋晚期	Bba IV 1	7.4	11.3 × 12.9		
侯馬上馬 1981M4090:22	春秋晚期	Bba IV 1	6.2	11 × 13.1		
渾源李峪 1975M3:3	春秋晚期	Bbc1 ?	11	11.2 × 13		『考古』1983 年 8 期
交口桃紅坡窯瓦 1985M	春秋晚期	A1	9.2			『三晋考古 (一)』
臨猗程村 1987M0001:50	春秋晚期	Abb1	6.7	14		『考古』1991 年 11 期
臨猗程村 1987M0001:126	春秋晚期	Bba IV 1	7.6	12 × 13.7		
臨猗程村 1987M0004	春秋晚期	Abb IV 1				『臨猗程村墓地』
臨猗程村 1987M0021:5	春秋晚期	Abb V 1	6	15.6 × 16.1	5.6 × 7.2	
臨猗程村 1987M1001:126	春秋晚期	Bba IV 1	8.2	10.9 × 13.6	4.8 × 6.6	
臨猗程村 1987M1001:127	春秋晚期	Bba IV 1				
臨猗程村 1987M1002:5	春秋晚期	Bba IV 1	8.2	14 × 15.2	8.6 × 10	
臨猗程村 1987M1002:6	春秋晚期	Bba IV 1	8.2	14 × 15.2	8.6 × 10	
臨猗程村 1987M1022:6	春秋晚期	Bba IV 1				
臨猗程村 1987M1023:4	春秋晚期	Aaac II 1	4	12.2	3.2	
臨猗程村 1987M1024:10	春秋晚期	Abb V 1	5.5	12 × 14.4	7.4 × 9	
臨猗程村 1987M1056:8	春秋晚期	Bba IV 1	8	12 × 13.3	7 × 7.6	
臨猗程村 1987M1062:5	春秋晚期	Bba IV 1	7.5	11.3 × 13.3	6.4 × 7.3	
臨猗程村 1987M1082:10	春秋晚期	Abc II 1	6.6	11.6 × 14.8	6 × 9.5	
臨猗程村 1987M1118:3	春秋晚期	Bba IV 1	8.1	12.4 × 15.3	7.6 × 9.5	
屯留武家溝 1970M	春秋晚期	Bba IV 1	6.7	11.7 × 13.7	5.5 × 7.5	『考古』1983 年 3 期
万榮喇前 1958M1:27	春秋晚期	Abb V 2	6	10 × 15.2	6 × 9	『三晋考古 (一)』
万榮店前 1962M1:14	春秋晚期	Bba IV 1	7.5	10.3 × 13.4		
聞喜邱家莊 1979M13:9	春秋晚期	Bba IV 1	7.7	13 × 14.2		『考古與文物』1983 年 1 期
新絳東柳泉 1976 採	春秋晚期	Bba IV 1	6.7	12		『晋都新田』
新絳西柳泉 1984 採	春秋晚期	Bba IV 1	7.2	12		

原平劉莊塔崗梁 1985M1:2	春秋晚期	Bba IV 1	6.9	11.5 × 13.2		『文物』1986 年 11 期
原平刘庄塔岗梁 1985M3:4	春秋晚期	Bba IV 1	7.4	12.9 × 15.6		
運城南相 1987M1:6	春秋晚期	Abb V 1	7.5	9.4		『文物季刊』1990 年 1 期
侯馬下平望 1975M	戰国早期	Bba V 1	7.8	13.5 × 16		『文物季刊』1993 年 1 期
潞城潞河 1983M7:105	戰国早期	Bba V 1	7	16.1 × ?		『文物』1986 年 6 期
太原金勝村 1988M251:533	戰国早期	Bba V 1	8.65	15.3 × 19.2		『太原晋国趙卿墓』
太原金勝村 1988M251:563	戰国早期	Bba V 1				
太原金勝村 1988M251:564	戰国早期	Bba V 1		13.8 × 16.4		
太原金勝村 1988M251:601	戰国早期	Bba V 1	8.7	15.3 × 19		
長治分水嶺 1954M11:8	戰国早期	Bba V 1	4.8	10 × 12.3		『長治分水嶺東周墓地』
長治分水嶺 1964M126:240	戰国早期	Bba V 1	7	11 × 16		
長治分水嶺 1966M225:12	戰国早期	Bba V 1	6.4	14.1	9.1	
長治分水嶺 1966M229:8	戰国早期	Bba V 1	6	10.2	5.6	
長治分水嶺 1954M12:15	戰国中期	Bba VI 1	8.2	13.1 × 15	7.6 × 10	
長治分水嶺 1954M12:?	戰国中期	Bba VI 1	7.8	12.6 × 15.7	11	
長治分水嶺 1959M25:41	戰国中期	Bba VI 1	6	13 × 16	9 × 13	
新絳柳泉 1979M302:17	戰国中期	Bba VI 1	7.7	10.4 × 14.2		『晋都新田』
韓城梁帶村 2005M26:139	春秋初期	Aaaa II 1	6.5		腹 9.8	『金玉華年』
陝西省						
鳳翔八旗屯 1978M	春秋早期	Aaaa IV 1	6.7	10.4 × 13.6		『考古与文物』1991 年 2 期
橫山城関 2002 採 :973	春秋早期	Abb III 1	6.4	11.6 × 14.4		『陝北出土青銅器 (三)』
鳳翔高莊 1977M10:18	春秋晚期	Abb V 1	7.8	7.2 × 9.2		『考古与文物』1981 年 1 期
鳳翔高莊 1977M10:14	春秋晚期	Bba IV 1	6.7	8.8 × 9.6		
甘肅省						
礼县門頂山 1998M1:15	春秋早期	Aba II 1	8.3	9.6 × 13.2		『文物』2002 年 2 期
張掖木龍壩 1985M	春秋早期	Aba II 1	6.7	8.7 × 11.5		『考古与文物』1990 年 1 期
河北省・北京市・遼寧省						
懷來甘子堡 1981M16:3	春秋早期	Abb III 1	7.2	11.2	6.8	『文物春秋』1993 年 2 期
延慶王皇廟 1986M156:4	春秋早期	Abb III 1	5.3	11.9 × 15.4	腹 13.2 × 16.8	『軍都山墓地』
延慶王皇廟 1986M171 :4	春秋早期	Aab II 1	7	10.5 × 12.3	腹 11.9 × 13.7	
延慶王皇廟 1986M174 :13	春秋早期	Abb III 1	5.1	11.3 × 14.9	腹 11.7 × 15.5	
延慶王皇廟 1986M250 :3	春秋早期	Abb III 1	6.8	11.4 × 15	腹 13 × 16.6	
延慶王皇廟 1986M35 :2	春秋早期	Abb III 1	7.4	11 × 14.4		
延慶王皇廟 1986M18 :4	春秋早期	Aab III 1	6.9	8.7 × 11.5	10.2 × 13	
延慶王皇廟 1986M2:9	春秋早期	Abb III 1	9.4	12.3 × 15.6		
延慶王皇廟 1986M2:10	春秋早期	Cbc1	5.6	连耳宽 14.7, 长 12.2		
延慶王皇廟 1986M2:11	春秋早期	Cbc1	5.1	连耳宽 13.4, 长 11.8		
懷來甘子堡 1981M1:7	春秋中期	Abb IV 1	8.8	9.2		『文物春秋』1993 年 2 期
懷來甘子堡 1981M2:5	春秋中期	Abb IV 1	10.4	12.8		
北京収集	春秋晚期	Cba III 1	8	13.4 × 17.6		『文物』1987 年 11 期
邯鄲百家村 1957M57:26	春秋晚期	Bba IV 1	6.2	9.8 × 12.1		『考古』1962 年 12 期
雲壽西岔頭 1984M:13	春秋晚期	Bba IV 1	8.4	7.2 × 9.6		『文物』1986 年 6 期
滿場採石廠 1971M	春秋晚期	Cbda1	16	9.3		『河北省出土文物選集』
曲陽大趙邱 1998M	春秋晚期	Bbc1	12.5	13		『文物』2000 年 11 期
容城南陽 1981 採	春秋晚期	Bbc1				『考古』1993 年 3 期
三河大唐遇 1978M1	春秋晚期	Bbc1	14	10.9 × 13		『考古』1987 年 4 期
三河双村 1978M1	春秋晚期	Bbc1				
涉県李家巷 1997M01:5	春秋晚期	Bba IV 1	6.3	11.2 × 14		『文物』2005 年 6 期
新寨中同村 1980M2:8	春秋晚期	Abb V 1	7	8 × 10.5		『文物』1985 年 6 期
行唐廟上 1966M1	春秋晚期	Abb IV 1	7.3	13.5 × 18		『河北省考古文集』
唐県北城子 1970M2	春秋晚期	Bbc1	14	12.5		『文物春秋』1991 年 1 期
唐県釣魚台 1966M	春秋晚期	Abb III 1	6	8.3 × 11		『中原文物』2007 年 6 期
易県燕下都 1964M31:2	春秋晚期	Cbdb I 1	14.35	11.4 × 13.2		『考古』1965 年 11 期
易県燕下都高陌 1975 征 :07	春秋晚期	Bbc1	13.2	9.8 × 11.4		『燕下都』
陽原九溝 1966M	春秋晚期	Bbc1	14.2	12		『河北省出土文物選集』
陽原九溝 1966M	春秋晚期	Cbdb I 1	16.2	12.2		
涿鹿倒拉嘴 1996M	春秋晚期	Abd II 1	8.4	10 × 11.2		『文物春秋』1999 年 6 期
順義龍湾屯 1982M	春秋晚期	Bbc1	13.5	10.4		『考古』1985 年 8 期
唐山賈各莊 1952M18:3	春秋晚期	Bbc1	14.3	10.7 × 12.6		『考古學報』1953 年 6 期
唐山賈各莊 1952M28:41	春秋晚期	Cbdb I 1	15.5	11.5 × 13.2		
略左南洞溝 1966M	春秋晚期	Bbc1	11	9.8 × 12.9		『考古』1977 年 6 期
平山穆家莊 1977M8102:6	戰国早期	Abb V 1	6.4			『考古學集刊 (5)』
三河双村 1975M03	戰国早期	Cbdb II 1	15.5			『考古』1987 年 4 期
通州中趙甫 1981M:5	戰国早期	Cbdb II 1	15	14.5		『考古』1985 年 8 期
遷西大黑汀 1989M1:3	戰国早期	Abd II 1	12.3	15.5 × ?		『文物』1996 年 3 期
河南省						

登封告成袁窯 1955M2:180	春秋早期	Aaab II 1	7	9		『文物』2009 年 9 期
羅山高店 1979M	春秋早期	Abb II 1	12.5	10.5 × 15		『中原文物』1981 年 4 期
洛陽西工區 2005M8750:2	春秋早期	Abb III 1	6.8	11.5 × 15		『洛陽體育場路西東周墓發掘報告』
洛陽西工區 2005M8832:26	春秋早期	Aab III 1	9.8	14.2 × 16.6		
洛陽西工區 2005M8834:4	春秋早期	Abb III 1	5.2	12.4 × 13.9		
洛陽西工區 2005M8836:41	春秋早期	Abb III 1	9	14.5 × ?		
洛陽中州路 1954M2415:5	春秋早期	Aab II 1	7.3			『洛陽中州路（西工段）』
新鄭唐戶 1976M1:4 大	春秋早期	Abb III 1	7	16.5		『文物資料 2 刊（2）』
新鄭唐戶 1976M1:4 小	春秋早期	Abb III 1	6.5	14.5		
新鄭興弘花園 2003M100:2	春秋早期	Abb III 1	7.4	10.8 × 16		『鄭韓故城興弘花園與熱電廠墓地』
新鄭興弘花園 2003M121:3	春秋早期	Abb III 1	7.3	10.8 × 14.3		
新鄭興弘花園 2003M42:2	春秋早期	Abb III 1	7.3	10.8 × 13.9		
信陽平橋西 1981M3:11	春秋早期	Aab II 1	8	10 × 12		『中原文物』1981 年 4 期
輝縣琉璃閣 1937M14	春秋中期	1				『山彪鎮與琉璃閣』
輝縣琉璃閣 1937M80	春秋中期	2				
輝縣琉璃閣 1951M130:5	春秋中期	Abb IV 1	6.3	9.6 × 15		『輝縣發掘報告』
洛陽王城廣場 2002M8:4	春秋中期	Abb IV 1	4.5	10.3 × 13.3		『洛陽王城廣場東周墓』
洛陽西工區 1981C1M4:4	春秋中期	Abc I 1	5	15		『中原文物』1983 年 4 期
洛陽西工區 1991C1M3427:14	春秋中期	Abb III 1	7.5	11 × 14		『文物』2010 年 8 期
洛陽西工區 1998C1M6112:7	春秋中期	Abb IV 1	10	14 × 18		『文物』1999 年 8 期
洛陽西工區 2001C1M7258:9	春秋中期	Abb IV 1	5.8	12 × 15.6		『考古與文物』2003 年 2 期
洛陽西工區 2001JM32:1	春秋中期	Abb III 1	5.9	10.8 × 15.2		『文物』2002 年 11 期
洛陽西工區 2005M8759:8	春秋中期	Cbb I 1	7.6	10.7 × 15		『洛陽體育場路西東周墓發掘報告』
洛陽西工區 2005M8814:3	春秋中期	Abb1				
洛陽西工區 2005M8815:3	春秋中期	Abb III 1	7.8	12.7 × 14.4		
洛陽西工區 2005M8820:3	春秋中期	Abb III 1	7	12.3 × 15.6		
洛陽西工區 2005M8821:4	春秋中期	Abb III 1	10	14.3 × 18.2		
洛陽西工區 2005M8830:6	春秋中期	Cbc1	6	13.2 × 18		
洛陽西工區 2005M8833:23	春秋中期	Abb III 1	6.1	12.4 × 16.5		
洛陽西工區 2005M8835:4	春秋中期	Abb III 1	6.4	13.5 × 16		
洛陽中州路 1954M1	春秋中期	Abb IV 1				『洛陽中州路（西工段）』
洛陽中州路 1954M6:19	春秋中期	Abb IV 1	5.1	腹 10.9 × 14		
陝東后川 1957M2056:7	春秋中期	Abb IV 1	9.5	13.9 × 19.5		『陝東東周秦漢墓』
陝東后川 1957M2061:1	春秋中期	Abb IV 1		12.9 × 16.4		
尉氏河東周村 1971M	春秋中期	Abb IV 2 Cbba II 1				『中原文物』1982 年 4 期
浙川下寺 1978M2:54	春秋中期	Abb IV 1	12	11.8 × 18.4		『浙川下寺春秋楚墓』
浙川下寺 1978M3:28	春秋中期	Aaac I 1	11.5	16.5		
新鄭李家樓 1923M:p128 左	春秋中期	Abb IV 1	7.5	12.7 × 16.7		『新鄭鄭公大墓青銅器』
新鄭李家樓 1923M:p128 中	春秋中期	Abb IV 1	6.7	11.3 × 14.5		
新鄭李家樓 1923M:p128 右	春秋中期	Abb IV 1	6.5	11.8 × 15.5		
新鄭李家樓 1923M:p126	春秋中期	Cbba II 1	13.5	15.8 × 22.7		
新鄭李家樓 1923M:p127	春秋中期	Cbba II 1	14	16.4 × 20.7		
新鄭熱電廠 2003M40	春秋中期	1				『鄭韓故城興弘花園與熱電廠墓地』
新鄭興弘花園 2003M35:5	春秋中期	Abb III 1	5.9	12.4 × 17.1		
蔡陽官莊 2010M24:2	春秋中期	Aba II 1	7	9.2 × 12.2		『華夏考古』2012 年 1 期
蔡陽官莊 2010M6:2	春秋中期	Abb IV 1	6.8	12.1 × 15.2		
潢川隆古高橋場 1966M1	春秋晚期	Abb V 1	6	13.5 × 16		『文物』1980 年 1 期
潢川隆古高橋場 1966M2	春秋晚期	Abc II 2	6	18.9		
輝縣琉璃閣 1936M 甲 :18	春秋晚期	Abb V 1	11.5	? × 20		『輝縣琉璃閣甲乙二墓』
輝縣琉璃閣 1936M 乙 :13	春秋晚期	Abb V 1	8.5	12.3 × 16.5		
輝縣琉璃閣 1936M 乙 :13-1	春秋晚期	Abb V 1	12.4	12 × 16.5		
輝縣琉璃閣 1937M17	春秋晚期	1				『山彪鎮與琉璃閣』
輝縣琉璃閣 1937M44	春秋晚期	1				
輝縣琉璃閣 1937M55	春秋晚期	1				
輝縣琉璃閣 1937M60	春秋晚期	1				
洛陽凱旋路南 1997LM470:12	春秋晚期	Ba IV 1	6.1	? × 11.9		『考古學報』2000 年 3 期
洛陽琉璃廠 1966M439:5	春秋晚期	Cbbb II 1				『文物』1981 年 7 期
洛陽王城廣場 2002M37:36	春秋晚期	Bba IV 1	6.2	10.8 × 12.5		『洛陽王城廣場東周墓』
洛陽西工區 1975M60:10	春秋晚期	Abb V 1	5.6	9.5 × 14.3		『考古』1981 年 1 期
洛陽西工區 1975M60:14	春秋晚期	Abb V 1	5.6	9.5 × 14.3		
洛陽西工區 1981C1M124:5	春秋晚期	Cbc1	7	11 × 13		『中原文物』1983 年 4 期
洛陽西工區 1983LBM4:10	春秋晚期	Ab1	5.2	10.3 × 13.8		『考古』1985 年 6 期
洛陽西工區 1991C1M3498:4	春秋晚期	Bba IV 1	7.1	12 × 12.8		『文物』2010 年 8 期
洛陽西工區 1992C1M3529:12	春秋晚期	Abb III 1	7	12.5 × 15.4		『中國國家博物館館刊』2011 年 8 期
洛陽西工區 2001C1M7039:11	春秋晚期	Abb V 1	6.3	11 × 15.8		『考古與文物』2003 年 2 期

洛陽西工区 2001C1M7226:24	春秋晚期	Bba IV 1	6	11.3 × 13.8		
洛陽西工区 2001C1M7256:5	春秋晚期	Abb IV 1	7.7	12 × 16		
洛陽西工区 2001C1M7257	春秋晚期	1				
洛陽西工区 2005M8762:9	春秋晚期	Abb V 1	7.4	11.5 × 13.5		『洛陽体育场路西東周墓発掘報告』
洛陽西工区 2005M8829:10	春秋晚期	Abb IV 1	5.9	11.1 × 14		
洛陽伊川劉溝 2000M74:15	春秋晚期	Abc II 1	7.7	12.2		『文物』2001年6期
洛陽中州路 1954M115	春秋晚期	Bba IV 1				『洛陽中州路（西工段）』
洛陽中州路 1954M2729:23	春秋晚期	Bba IV 1	5.7	11.4 × 12.3		
洛陽中州路 1954M4	春秋晚期	1				
洛陽中州路北 1998LM535:4	春秋晚期	Abb IV 1	6	12.6 × 16.6		『考古』2002年1期
淇県趙溝 1981M1	春秋晚期	Abd I 1	6.7	10 × 14		『中原文物』1984年2期
新鄭李家村 1979M1:4	春秋晚期	Cbb II 1	8	12 × 16		『考古』1983年8期
新鄭鉄嶺 2009M429:3	春秋晚期	Abb IV 1	7.4	12.9 × 16.8		『中原文物』2010年1期
新鄭鉄嶺 2011M1404:16	春秋晚期	Cbb II 1	7.6	12 × 16.4		『中原文物』2012年2期
新鄭鉄嶺 2011M1405:3	春秋晚期	Cbba II 1	12.3	12.6 × 17		
新鄭新禹公路 1987M1:3	春秋晚期	Cbb II 1	7.2	12 × 15.6		『考古』1994年5期
鄭州加気混凝土廠 1998M14:1	春秋晚期	Abc II /Cbc1	残 9.6			『華夏考古』2001年4期
固始侯古堆 1978M1:6	春秋晚期	1				『固始侯古堆一号墓』
洛陽中州路 1954M2717:196	戦国早期	Bba V 1				『洛陽中州路（西工段）』
陝県后川 1957M2041	戦国早期	Bba V 1				『陝県東周秦漢墓』
陝県后川 1957M2124:43	戦国早期	Bba V 1				
陝県后川 1957M2125	戦国早期	1				
陝県后川 1957M2149	戦国早期	1				
新鄭鉄嶺 2009M458:3	戦国早期	Cbba III 1	13.3	14.5 × 20		『文物研究（17）』
新鄭鉄嶺 2009M550:3	戦国早期	Cbba III 1	9.9	13.4 × 18.2		『中原文物』2010年5期
新鄭新禹公路 1988M13:5	戦国早期	Cbb III 1	7.2	10.7 × 14.7		『考古』1994年5期
新鄭新禹公路 1988M2:5	戦国早期	Cbb III 1	7.8	12.3 × 16.2		
新鄭鄭韓路 2004M6:3	戦国早期	Cbba III 1	11.2	13.6 × 18.6		『文物』2005年8期
輝県琉璃閣 1937M59	戦国中期	1				『山彪冢与琉璃閣』
輝県琉璃閣 1937M76	戦国中期	1				
輝県趙固 1951M1:25	戦国中期	1	4.1	15.2 × 17.3		『輝県冢掘告』
洛陽西工区 1982C1M395:142	戦国中期	Abd I 2	6.5	8.2 × 11.2		『考古学報』2002年3期
洛陽西郊 1973M4:66	戦国中期	Abd III 1	8.1	8.7 × 14		『文物資料叢刊（9）』
陝県后川 1957M2040:460	戦国中期	Bba VI 2	6	10.2 × 12.4		『陝県東周秦漢墓』
陝県后川 1957M2042	戦国中期	Bba VI 1				
陝県后川 1957M2048:9	戦国中期	Bba VI 1	6.7			
安徽省						
鳳陽喬澗子 2013M2:4	春秋早期	Aaaa IV 1	8.1	11.8 × 15.6		『江漢考古』2015年2期
鳳陽喬澗子 2013M2:2	春秋早期	Aaaa IV 1	8.8	9.7 × 14.2		
湖北省						
棗陽郭家廟 2002M17:11	春秋初期	Aaab I 1	7.4	8.6		『棗陽郭家廟曾國墓地』
谷城新店 1977M	春秋早期	Ca I 1	8.5	16.5 × 20.7		『江漢考古』1986年3期
漢川西正街尾 1974M	春秋早期	A III 1	10	9 × 12.5 腹 10 × 14.2		『文物』1974年6期
麻城李家湾 1993M44:1	春秋早期	Abb III 1	7.4	11 × 14.4		『考古』2000年5期
武漢文物商店徵蔡太史鍾	春秋早期	Abb I 1	9	8.5 × 12.5		『江漢考古』1983年2期
当陽金家山 1984M247:2	春秋中期	Abc I 1	5.5	13.6 × 15.4		『文物』1989年11期
当陽金家山 1984M248:3	春秋中期	Abb IV 1	6.6	10.2 × 14.5		
当陽金家山 1984M249:5	春秋中期	Abc I 1	5.5	12.5		
当陽趙家塋 1978M8:18	春秋中期	Abc I 1	6.2	13 × 15.8		『当陽趙家湖楚墓』
当陽鄭家窪 1978M23	春秋中期	Abc I 1				
当陽曹家崗 1978M3:1	春秋中期	Abb IV 1	6.8	12.6 × 15.6		
当陽金家山 1975M9:6	春秋中期	Abc I 1	7	13 × 15.3		
襄陽山湾 1972 采 :12	春秋中期	Abb IV 1	腹高 5.1	9.7 × 11.7		『江漢考古』1988年1期
襄陽余崗 2004M237:4	春秋中期	Abc I 1	7.5	14.1		『余崗楚墓』
襄陽余崗 2004M241:5	春秋中期	1				
襄陽余崗 2004M279:7	春秋中期	Abc I 1	6.4	14.6		
襄陽山湾 1972 采 :11	春秋晚期	Abc II 1	6	14		『江漢考古』1988年1期
襄陽山湾 1972 采 :29	春秋晚期	Abc II 1	7.5	14.2		
襄陽山湾採襄樊博物館藏	春秋晚期	Abc II 1	7	14 × 14.6		『江漢考古』1988年3期
襄陽余崗 2004M236:5	春秋晚期	1				『余崗楚墓』
当陽曹家崗 1981M5	戦国早期	Abb III 1	7	10.5 × 12.5		『江漢考古』1986年2期
荊州熊家冢 2006PM16:19	戦国早期	Aaac III 1	4.7	13		『文物』2009年4期
江陵九店 1981M47	戦国中期	1				『江陵九店東周墓』
雲夢睡虎地 1975M9:25	戦国晚期	Abc I 1	6.7	14.6		『雲夢睡虎地秦墓』
湖南省						

湘潭楓樹 1975M:4	春秋早期	Aba II 1	残高 5	腹 11.5 × 14		『考古』1978 年 5 期
江蘇省						
六合程橋 1988M3:7	春秋晚期	Abb V 1	8			『東南文化』1991 年 1 期
蘇州新蘇絲織廠 1977JC	春秋晚期	Abd I 1	7.9	12.5		『文物』1980 年 8 期
浙江省						
紹興獅子山 1982M306:28	春秋晚期	Abb V 1 金玉質	6	11.2 × 14.2		『文物』1984 年 1 期

注

- 1) 本稿の中心となる青銅器の型式分類と年代考定については路国権が担当した。西江清高は路の中国語原案にもとづいて加筆再整理した日本語原稿を作成した。渡部展也と金井サムエルは本稿にも利用されている GIS 基盤にかかわるデータの整理と地図の作成をすすめた。また論文完成までに執筆者相互に意見の交換をおこなった。本稿は 4 人の執筆者が今後に予定している中国山東省を対象とした地理考古学的研究にむけた試みの一つでもある。
- 2) 西江清高『『中国』的文化領域の原型と『地域』文化』『文化人類学』8、アカデミア出版会、1990 年。
- 3) 路国権『東周青銅容器系譜研究』上海古籍出版社、2018 年。日本でも近年、春秋戦国青銅器の型式学的研究と、そこに反映された春秋戦国時代の地域間関係の動向を指摘する研究が蓄積されている。春秋戦国期の青銅器とくにいわゆる青銅礼器の研究ではしばしば銘文がともなうこともあって、諸国間の「国際関係」を一つの背景とした文化要素や技術体系の拡散、交流といった研究が取り上げられることが多い。
- 4) 本稿では筆者の一人の路国権が提唱する春秋初期（前 770-680 年）、春秋早期（前 680-600 年）、春秋中期（前 600-530 年）、春秋晚期（前 530-453 年）、戦国早期（前 453-370 年）、戦国中期（前 370-280 年）、戦国晚期（前 280-221 年）という時期区分と年代設定を採用する。この時期区分と年代の根拠については、注 3 掲、路国権書、422-423 頁を参照のこと。また、路国権「“上村嶺組”和“宝相寺組”銅器群的分野及相关問題」『中国考古学』（日本中国考古学会）第 17 号、2017 年。
- 5) a. 林巳奈夫『春秋戦国時代青銅器の研究 殷周青銅器総覧三』吉川弘文館、1989 年。b. 馬承源主編『中国青銅器（修訂本）』上海古籍出版社、2003 年。c. 朱鳳瀚『中国青銅器総論』上海古籍出版社、2009 年。d. 齐耐心『東周青銅卣の整理与研究』陝西師範大学碩士論文、2011 年。e. 吳偉華「山東出土東周銅鉶及相關問題研究」『考古』2012 年第 1 期。f. 畢経緯「銅鉶研究」『考古学報』2015 年第 4 期。
- 6) 本稿が引用した青銅鉶の資料は、2015 年までに報告書や学術誌に発表された資料である。
- 7) 莒県博物館「山東莒県西大莊西周墓葬」『考古』1999 年第 7 期。
- 8) 孫秉君・蔡慶良『芮国金玉選粹—陝西韓城春秋宝蔵』三秦出版社、2007 年。
- 9) 烟台市文物管理委员会「山東蓬萊県柳格莊墓群發掘簡報」『考古』1990 年第 9 期。
- 10) 臨淄区文物局「山東淄博市臨淄区劉家新村春秋墓」『考古』2013 年第 5 期。
- 11) 棗莊市博物館ほか「山東棗莊徐樓東周墓發掘簡報」『文物』2014 年第 1 期。
- 12) 襄樊市考古隊ほか『襄陽郭家廟曾國墓地』科学出版社、2005 年。
- 13) 鄭州市文物考古研究院・登封市文物管理局「河南登封告成春秋墓發掘簡報」『文物』2009 年第 9 期。
- 14) 河南省文物研究所ほか『浙川下寺春秋楚墓』文物出版社、1991 年。
- 15) 中国社会科学院考古研究所等『臨猗程村墓地』中国大百科全書出版社、2003 年。
- 16) 荊州博物館「湖北荊州熊家冢墓地 2006-2007 年發掘簡報」『文物』2009 年第 4 期。
- 17) 齊国故城遺址博物館・臨淄区文物管理所「山東臨淄齊国故城西周墓」『考古』1988 年第 1 期。
- 18) 烟台市博物館・海陽市博物館『海陽嘴子前』齊魯書社、2002 年。
- 19) 洛陽市文物工作隊『洛陽體育場路西東周墓發掘報告』文物出版社、2011 年。
- 20) 山東省濟寧市文物管理局「薛国故城勘察和墓葬發掘報告」『考古学報』1991 年第 4 期。
- 21) 注 18 掲報告書。
- 22) 山西省考古研究所「1976 年聞喜上郭村周代墓葬清理記」『三晋考古（一）』山西人民出版社、1994 年。

- 23) 注 22 掲報告書。
- 24) 注 19 掲報告書。
- 25) 注 18 掲報告書。
- 26) 注 14 掲報告書。
- 27) 山東省兗石鉄路文物考古工作隊『山東省臨沂鳳凰嶺東周墓』齊魯書社，1987 年。
- 28) 棗莊市博物館等「棗莊市峰城徐樓東周墓葬發掘報告」『海岱考古（七）』科學出版社，2014 年。
- 29) 湖北省宜昌地區博物館「當陽金家山春秋楚墓發掘簡報」『文物』1989 年第 11 期。
- 30) 山西省考古研究所等『長治分水嶺東周墓地』文物出版社，2010 年。
- 31) 注 20 掲報告書。
- 32) 山東省文物考古研究所『臨淄齊墓（一）』文物出版社，2007 年。
- 33) 注 32 掲報告書。
- 34) 臨淄區文物局「山東淄博市臨淄區辛店二號戰國墓」『考古』2013 年第 1 期。
- 35) 淄博市臨淄區文化局「山東淄博市臨淄區趙家徐姚戰國墓」『考古』2005 年第 1 期。
- 36) 淄博市博物館・齊故城博物館『臨淄商王墓地』齊魯書社，1997 年。
- 37) 山東省文物考古研究所・新泰市博物館『新泰周家莊東周墓地』文物出版社，2014 年。
- 38) 煙台市文物管理委員會「山東長島王溝東周墓群」『考古學報』1993 年第 1 期。
- 39) 山東省博物館・長清縣文化館「山東長清崗辛戰國墓」『考古』1980 年第 4 期。
- 40) 注 36 掲報告書。
- 41) 山東省文物考古研究所ほか『曲阜魯國故城』齊魯書社，1982 年。
- 42) 安丘市博物館「山東安丘柘山鎮東古廟村春秋墓」『文物』2012 年第 7 期。
- 43) 中國社會科學院考古研究所洛陽唐城工作隊「洛陽凱旋路南東周墓發掘報告」『考古學報』2000 年第 3 期。
- 44) 朱華「聞喜上郭古墓群試掘」『三晉考古（一）』山西人民出版社，1994 年。
- 45) 注 15 掲報告書。
- 46) 山西省考古研究所・太原市文物管理委員會『太原晉國趙卿墓』文物出版社，1996 年。
- 47) 楊富斗ほか『新絳柳泉墓地調查，發掘報告』山西人民出版社，1996 年。
- 48) 淄博市博物館「山東淄博磁村發現四座春秋墓」『考古』1991 年第 6 期。
- 49) 程長新「北京市順義縣龍灣屯出土一組戰國青銅器」『考古』1985 年第 8 期。
- 50) 山東省文物考古研究所標本室陳列。
- 51) 襄樊市博物館・谷城縣文化館「襄樊市、谷城縣館藏青銅器」『文物』1986 年第 4 期。
- 52) 山東大學歷史文化學院考古系「長清仙人台五號墓發掘簡報」『文物』1998 年第 9 期。
- 53) 青州市博物館「青州楊姑橋遺址調查報告」『海岱考古（五）』科學出版社，2012 年。
- 54) 注 52 掲報告書。
- 55) 聊城地區博物館「山東陽谷景陽岡村春秋墓」『考古』1988 年第 1 期。
- 56) 注 19 掲報告書。
- 57) 河南博物院『新鄭鄭公大墓青銅器』大象出版社，2001 年。
- 58) 鄭州市文物考古研究院・河南省文物管理局南水北調弁公室「新鄭鉄嶺墓地 M1404，M1405 發掘簡報」『中原文物』2012 年第 2 期。
- 59) 河南省文物考古研究所新鄭工作站「新鄭市鄭韓路 6 號春秋墓」『文物』2005 年第 8 期。
- 60) 洛陽博物館「洛陽袁成叔墓清理簡報」『文物』1981 年第 7 期。
- 61) 注 19 掲報告書。
- 62) 河北省博物館・文物管理处『河北省出土文物選集』文物出版社，1980 年。
- 63) 河北省文化局文物工作隊「1964—1965 年燕下都墓葬發掘報告」『考古』1965 年第 11 期。
- 64) 廊坊地區文物管理所・三河縣文化館「河北三河大唐迴，双村戰國墓」『考古』1987 年第 4 期。
- 65) 張連利等『山東淄博文物精粹』山東畫報出版社，2002 年。

- 66) 李学勤『東周与秦代文明』上海人民出版社, 2007 年。
- 67) 秦永軍ほか「河南商水県出土周代青銅器」『考古』1989 年第 4 期。
- 68) 李零「“楚叔之孫俚” 究竟是誰」『中原文物』1981 年第 4 期。
- 69) 劉彬徽『楚系青銅器研究』湖北教育出版社, 1995 年。
- 70) 徐俊英「南陽博物館藏一件春秋銅敦」『文物』1991 年第 5 期。
- 71) 山西省文物工作委員会『侯馬盟書』文物出版社, 1976 年。
- 72) a. 衛今・晋文「“侯馬盟書” 和春秋后期晋国的階級闘争」『文物』1975 年第 5 期。b. 張頌等『侯馬盟書 (増訂本)』山西古籍出版社, 2006 年。
- 73) 謝堯亭「侯馬盟書的年代及相關問題」『山西省考古学会論文集 (三)』山西古籍出版社, 2000 年。
- 74) 李学勤氏は、侯馬盟書について「第 105 坑以外の盟書については年代がやや晚い。第 16 坑からみると前 470 年前後であろう」とする。注 66 掲書。
- 75) 注 66 掲書。
- 76) 路国権「三門峡上村嶺虢国墓地銅器群の年代下限及相關問題」(刊行予定)。
- 77) 注 69 掲論文。
- 78) 注 66 掲書。
- 79) 注 66 掲書。
- 80) 注 66 掲書。
- 81) 注 76 掲論文。
- 82) 注 69 掲論文。
- 83) 注 67 掲論文。
- 84) 注 68 掲論文。
- 85) 注 69 掲書。
- 86) 山西省文物工作委員会晋東南工作組・山西省長治市博物館「長治分水嶺 269, 270 号東周墓」『考古学報』1974 年第 2 期。
- 87) 注 70 掲論文
- 88) 河南省文物考古研究所『固始侯古堆一号墓』大象出版社, 2004 年。
- 89) 安徽省文物管理委员会・安徽省博物館『寿县蔡侯墓出土遺物』科学出版社, 1956 年。
- 90) 湖北省文物考古研究所『江陵望山沙塚楚墓』文物出版社, 1996 年。
- 91) a. 陳振裕「略論九座楚墓的年代」『考古』1981 年第 4 期。b. 陳振裕「望山一号墓的年代与墓主」『中国考古学会第一次年会論文集』文物出版社, 1980 年。
- 92) 劉彬徽「从包山楚簡紀時材料論及楚国紀年与楚歷」『包山楚墓』文物出版社, 1991 年。
- 93) 注 90 掲報告書。
- 94) 注 70 掲論文。
- 95) 河南省文物考古研究所『固始侯古堆一号墓』大象出版社, 2004 年。
- 96) 注 89 掲報告書。
- 97) 路国権「論太原金勝村 1988M251 銅器群の年代及相關問題」『考古与文物』2016 年第 1 期。
- 98) 王世民「陝県后川 2040 号墓の年代問題」『考古』1959 年第 5 期。
- 99) 淮陰市博物館「淮陰高莊戰国墓」『考古学報』1988 年第 2 期。
- 100) 湖北省博物館江陵工作站・麻城県革命博物館「麻城楚墓」『江漢考古』1986 年第 2 期。
- 101) 趙化成「東周燕代青銅容器的初步分析」『考古与文物』1993 年第 2 期。
- 102) 注 69 掲書。
- 103) 注 66 掲書。
- 104) a. 山西省文物管理委员会侯馬工作站「山西侯馬上馬村東周墓葬」『考古』1963 年第 5 期。b. 趙頌・趙万鐘「庚儿鼎解」『考古』1963 年第 5 期。

105) 注 97 掲論文。

106) 山西省考古研究所『上馬墓地』文物出版社，1994 年。

107) 注 89 掲報告書。

108) 夏商周断代工程专家组『夏商周断代工程 1996-2000 年段階成果報告（簡本）』世界図書出版公司，2000 年。

109) 注 3 掲，路国権書参照。なお付表 2 にある泰安王士店 1963 採：2（林宏「泰安市夏張王士店出土一批青銅器」『考古与文物』2008 年第 5 期）について，同簡報が紹介する 3 点の青銅鉶については登録番号が与えられておらず，便宜上簡報の青銅鉶Ⅱ式を青銅鉶 2 号と称することにした。

110) このうちの図 3 について，春秋早期の蔡国は現在の河南省上蔡にあった。図 3 中の蔡太史鉶は河南上蔡に位置している。また，紙幅の関係で，図 4 では甘肅張掖出土の Aba 型について表示されていない。同じく図 6 中には遼寧喀左出土の Bbc 型が表示されていない。

111) この地図は，国家文物局主編『中国文物地図集 山東分冊（上）（下）』中国地図出版社，2007 年を情報源とする遺跡の位置データと属性データをもちいて GIS 基盤を構築し，それにもとづいて作成したものである。